

第2章 みどりの現況及び課題

1 本市の概況

(1) みどりに関する自然的状況

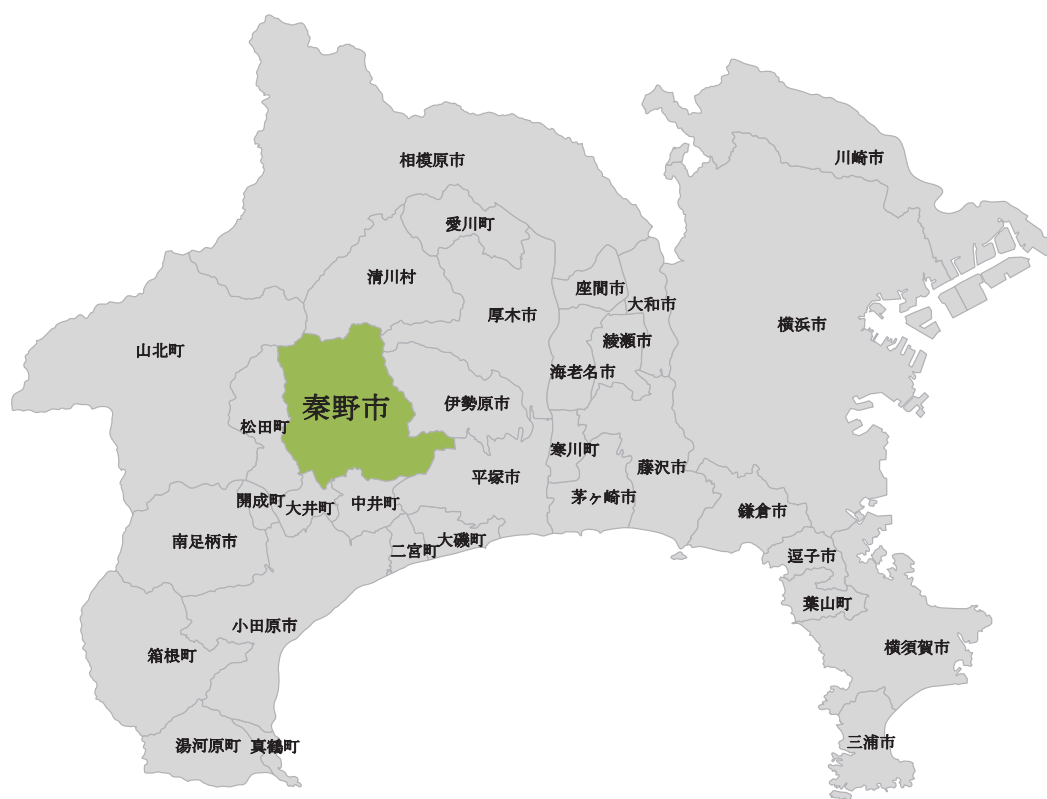
ア 自然

(ア) 地形

本市は、神奈川県央の西部に位置し、東西約 13.6 km、南北約 12.8 km、面積 103.76 km²で、市の中心部から新宿まで小田急電鉄により約 70 分、東名・新東名高速道路などの高規格幹線道路でも都心と直結した県央の中核都市の一つです。

本市の自然環境については、その地形に特徴が示されています。北方には標高 1,200m～1,400mの丹沢山地があり、南方には標高 200mほどの渋沢丘陵が東西に走っています。中央の秦野盆地は、東西 6.5 km、南北 4 kmの断層盆地で、北西から南西に傾斜し、海拔 80～350mあたりになだらかな広がりを見せて、県下で唯一の典型的な盆地を形成しています。

また、水無川・葛葉川・金目川・四十八瀬川は、丹沢の稜線に端を発し、丹沢山地からの多量の砂礫を運び込んで堆積させ、これにより複合扇状地を形成し、その上を厚く火山灰土が覆っています。



(イ) 水系

本市の河川は、その盆地の中央部に水無川・葛葉川、東部に金目川、西部に四十八瀬川、盆地の南縁に沿って室川、弘法山の山裾を東に大根川が流れています。盆地の扇状地中央部を流れる水無川は、その名のとおり降水時以外は水量が少なく、特に冬の渇水期には、扇央部で流水が無くなることもあります。丹沢山地に降った雨水は扇頂より地下に浸透して地下水となり、帯水層の中をゆっくり流動しながら盆地南の扇端部で湧水群を形成しています。このような地形的特性から、秦野盆地は、盆地全体が「天然の水がめ」を形成し、約7億5千万トンの地下水があるといわれています。

(ウ) 地質





地質的には、新第三紀のグリーンタフ造山運動による緑色凝灰岩が山体を形成し、その上部を火山灰土が覆っています。緑色凝灰岩の層は丹沢層群と呼ばれ、安山岩や玄武岩質火山岩類よりなっています。これらの火成岩は地相斜運動による海成作用を通して形成され、暗緑色を呈することから緑色凝灰岩と呼ばれています。断層による陥没で形成された秦野盆地は、上部を厚く立川ローム層（関東ローム層）で覆われています。

(エ) 気象

気候は、海洋性気候の影響を受け、降霜・降雪は少なく、太平洋側は温暖帯に属しており、年間の平均気温は16.0℃（平成26年（2014年）～令和6年（2024年）秦野市消防本部調べ）で比較的温暖です。また、盆地の北部では、山岳の影響を受けて盆地特有の雨や風の局地現象がみられることもあります。また、降雨は夏期多雨、冬期小雨型で、年間の平均降水量は1,704.4mm（平成26年（2014年）～令和6年（2024年）秦野市消防本部調べ）となっています。

秦野市の地勢図



| 凡例 | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 行政界 |  小田急電鉄小田原線 |
|  | 市街化区域 |  高速道路 |
|  | 表丹沢県民の森 |  山 |
|  | 都市公園 |  国道246号 |
| | |  計画中 |
| | |  河川 |

イ みどりの現況

(ア) 丹沢山地

丹沢山地は、標高 800m付近を境として、上部はブナ帯、下部はシイ・カシ帯に分かれていましたが、現在ではシイ・カシ帯の自然林はほとんど見られず、二次林やスギ・ヒノキの人工林が大半を占めています。

野生鳥獣は、本州産の獣類のほとんどが生息しています。鳥類は猛禽類や亜高山帯の野鳥など多種類が生息し、首都圏にあるにもかかわらず野生生物の宝庫といえます。

(イ) 里地里山

里地里山は、山間部と市街地の中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、谷戸、草原等で構成される地域で、本市では、葉タバコ栽培に伴い創出され、市街地を取り囲むように存在します。コナラ・クヌギを中心とした二次林や湧水を利用した谷戸田等の水辺には、絶滅のおそれのある種（希少種）の多くが生息しています。

昭和 59 年（1984 年）に葉タバコ栽培が終焉したことにより、人の手が入らなくなり荒廃化が進みました。今日、里地里山の再生に向け、地元住民・NPO・ボランティア団体・企業と協働による事業展開をしています。

(ウ) 水辺

名水百選「秦野盆地湧水群」、関東大震災の際にできた自然湖である震生湖、古くから地域住民に親しまれている今泉湧水池などの地下水を水源とする水辺があります。これらの点的な緑地空間と、線的な緑地空間である市内 6 河川が、それぞれにビオトープの役割を担い、市街地を取り巻く面的な丹沢山地及び渋沢丘陵と連携し、「みどりネットワーク」を形成しています。

水辺緑地保全として、今泉湧水池とその周辺を「今泉名水桜公園」に整備しました。

(エ) 生物

住民団体等によるホタルの保全活動が盛んで、身近に観察できる生息地が市内に残っていることから、平成元年（1989 年）4 月にホタルの生息地が環境庁（現環境省）「ふるさといきものの里」として選定されました。

ホタルが生息できる水辺環境の保全のため、ホタル工法による用水路整備やホタルの生息できる公園「いまいずみほたる公園」の整備をしました。

また、秦野市みどり条例に基づき、希少な又は貴重な野生の生物が育成し、又は生息している水辺等を保護するため、「生き物の里」を 7 箇所指定しています。

ウ 緑地の現況

(ア) 山の緑

山の緑や良好な景勝を保全するため、丹沢大山国定公園・県立丹沢大山自然公園や自然環境保全地域が指定されています。また、水源地域の私有地を対象として、水源かん養など森林の持つ公益機能の高い森林づくりを進める「かながわ水源の森林づくり事業」が県を中心に展開されています。

本市では、森林を50年かけて再生・整備し、さらに50年かけて健全に育成し完成された森林にしていく「はだの一世紀の森林づくり構想」を掲げ、かつて葉タバコ栽培の盛んな頃の管理された里山への再生に向け、地元住民等が中心となって取り組んでいます。また、森林整備と木材活用の持続可能な循環サイクルの構築を目標とした、森林・里山の活用アクションプランによる植樹・育樹・活樹を進めています。

(イ) 都市(まち)の緑

樹林保全地区・保存樹木の指定、生産緑地地区の指定を行い、市街地に残る貴重な緑の保全を図っています。また、かながわのナショナル・トラスト緑地第1号「葛葉緑地」は、保存契約による緑地保全のみならず、くずはの広場を拠点に緑化思想の普及啓発に活用しています。

街中の緑を創造するため、秦野市まちづくり条例に基づく緑化指導を行っています。

(ウ) 緑地状況

令和2年度(2020年度)都市計画基礎調査票を参考にした緑地の状況は、次のとおりです。なお、緑地の区分は下表に示すとおりです。

| 区 分 | | 内 容 | |
|-----|-----|----------|-------------------|
| 緑 地 | 山 林 | 平坦地山林 | 傾斜度 15 度未満の山林 |
| | | 傾斜地山林 | 傾斜度 15 度以上の山林 |
| | 草 地 | 荒 地 | 雑種地、裸地等(湿地、沼地等) |
| | | 河 川 敷 | 河川敷内の草地など |
| | | そ の 他 | 都市公園、ゴルフ場 |
| | 農 地 | 田 | 水田 |
| | | 畑 | 畑・果樹園 みかん・くりなど |
| | | 耕作放棄地 | 当面耕作予定のない農地 |
| | 水 面 | 河川・水面・水路 | |

緑地

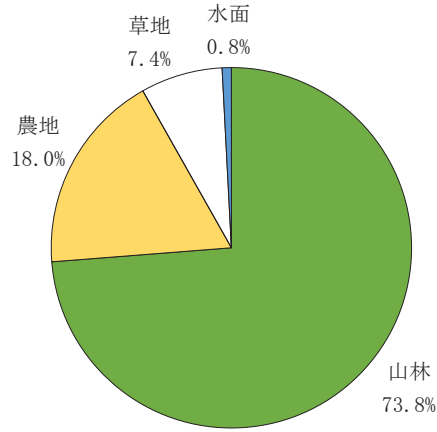
樹木や草など植物で被われている土地です。

緑地率

ある土地の地区面積に占める緑地の割合です。地域の緑の多少を表す指標として用いられます。

a 市全域の緑地の状況

市全域の緑地面積は7,428.8haで、市全域の71.6%が緑地となっています。このうち山林面積が5,479.3haで緑地の73.8%、農地面積が1,341.6haで緑地の18.0%を占め、緑地の大部分が山林と農地で構成されています。

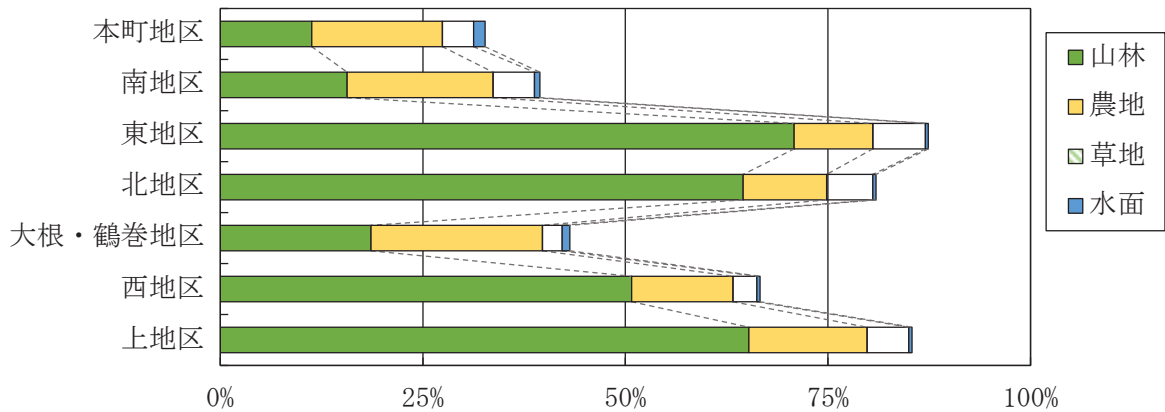


市全域の緑地の現況の内訳

※面積の値は令和2年度都市計画基礎調査結果の土地利用分類別面積の調査票によります。

b 地区別の緑地

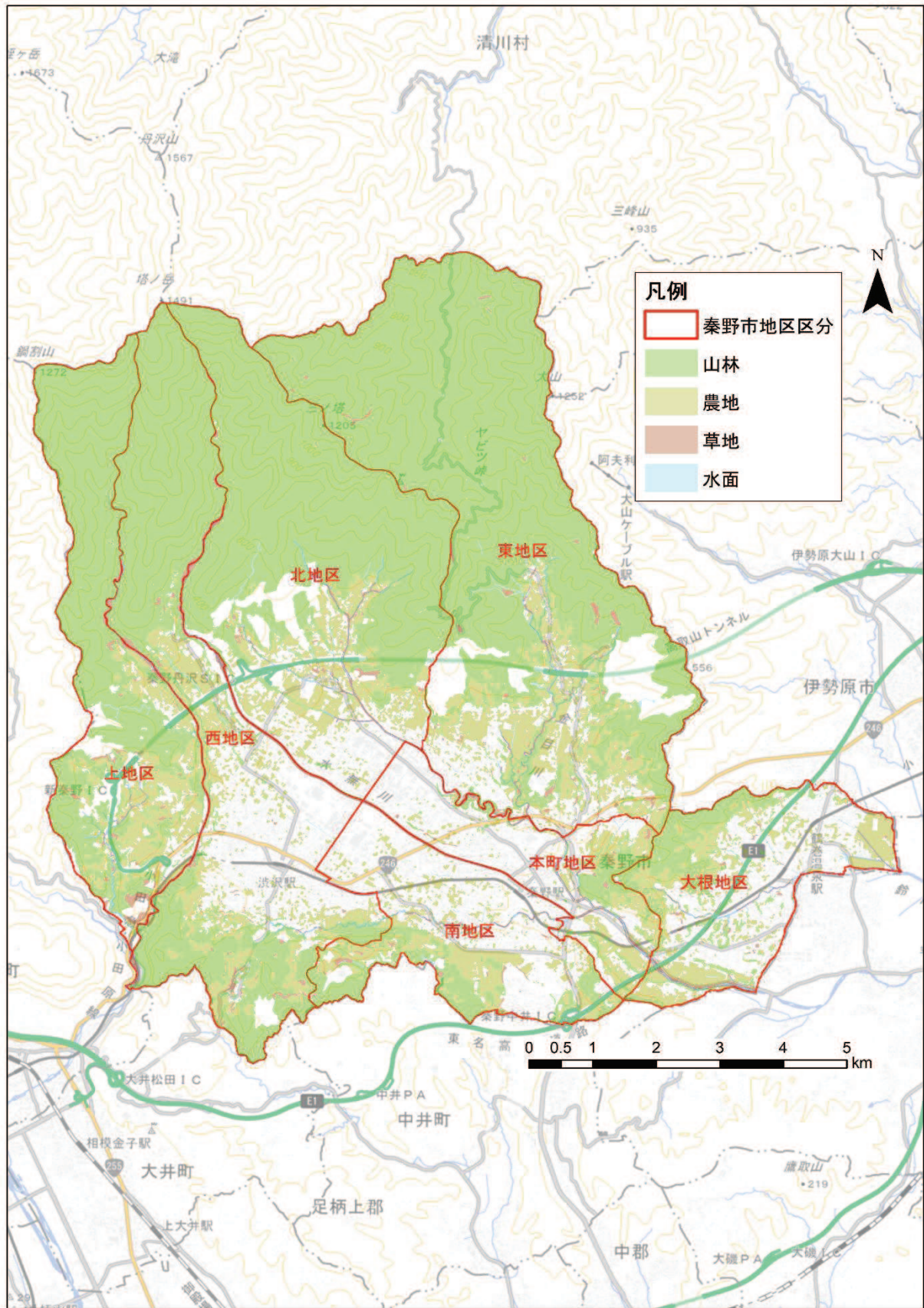
市街化の進んだ本町地区、南地区、大根・鶴巻地区では、農地の占める面積が山林よりも高くなっています。丹沢大山国定公園及び県立丹沢大山自然公園の区域を含む東地区、北地区、西地区、上地区では、地区面積の半分以上を山林が占めています。



地区別の緑地の現況

※各地区の面積は「秦野市公共施設白書 令和4(2022)年度改訂版」に掲載の数値を使用しています。

※緑地の面積は令和2年度都市計画基礎調査結果のGIS上の面積を用いているため、市全域の面積の数値(土地利用分類別面積の調査票)とは一致しません。

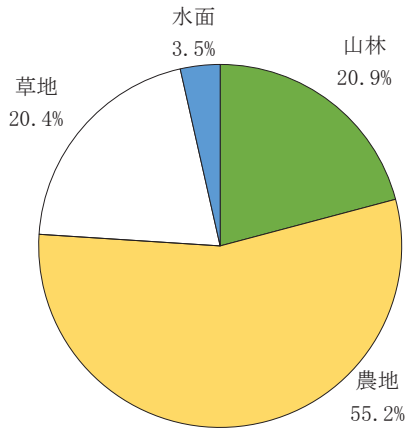


秦野市の緑地分布図（地区別）

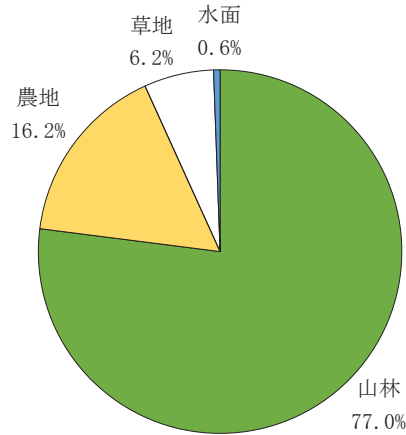
c 市街化区域・市街化調整区域の緑地

市街化区域の緑地面積は372.83ha、緑地率は15.2%です。このうち、緑地の55.2%が農地であり、市街化区域では農地が重要な緑地となっています。

市街化調整区域の緑地面積は7,014.7ha、緑地率は88.6%です。丹沢山地、渋沢丘陵などを含んでおり、緑地の77.0%が山林です。



市街化区域の緑地の現況の内訳

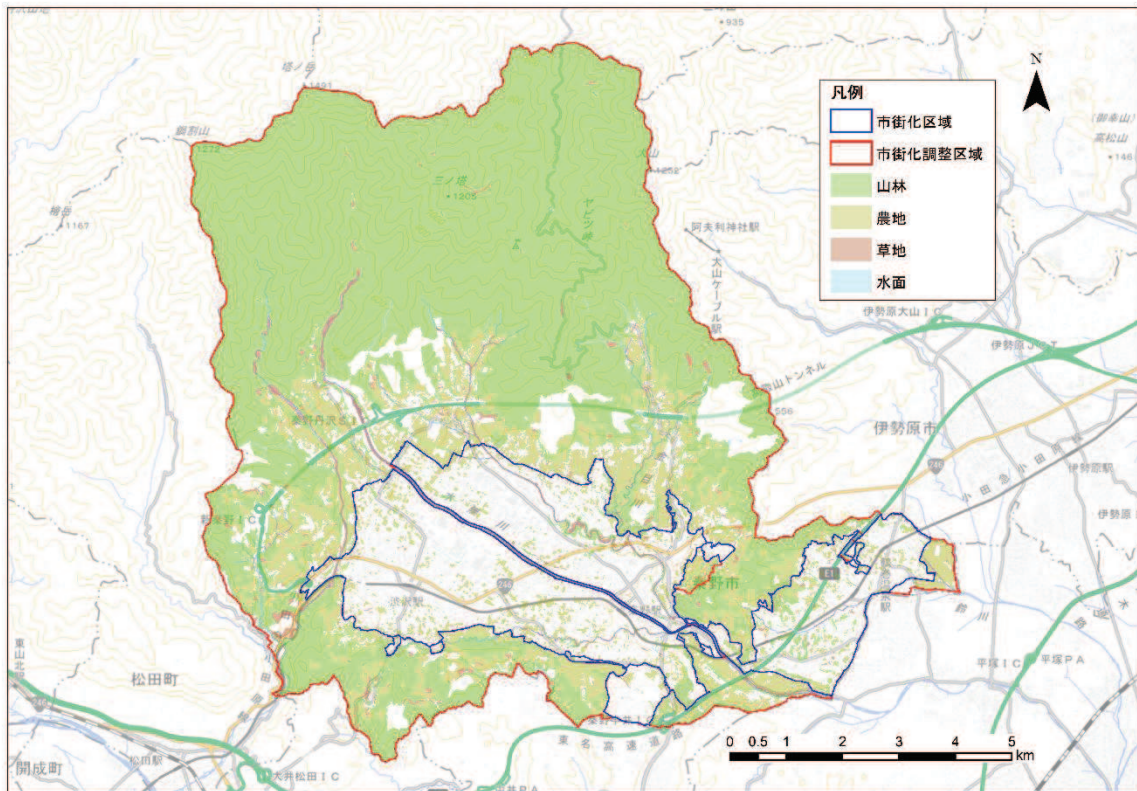


市街化調整区域の緑地の現況の内訳

※端数処理により合計が合わない場合があります。

※市街化区域・市街化調整区域の面積は「はだの都市計画」（令和7年（2025年）3月）に掲載の令和6年（2024年）3月現在の数値を使用しています。

※緑地の面積は令和2年度（2020年度）都市計画基礎調査結果のGIS上の面積を用いているため、市全域の面積の数値（土地利用分類別面積の調査票）とは一致しません。

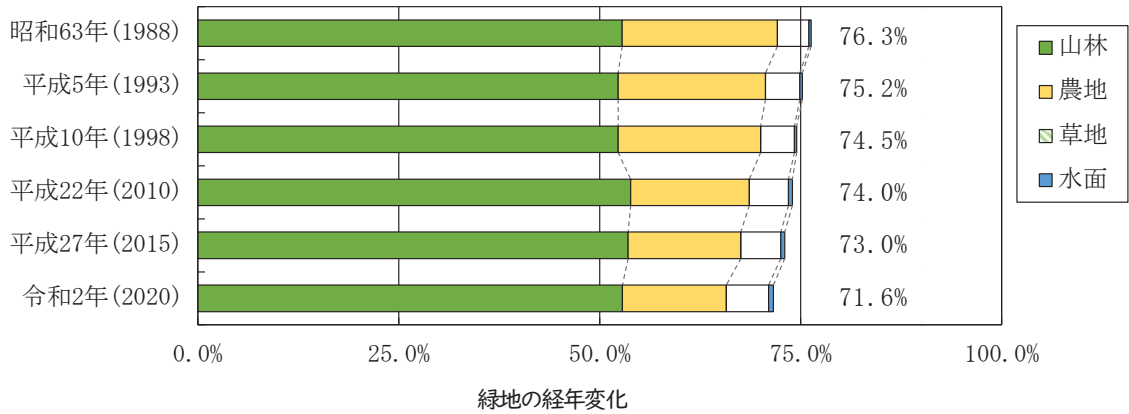


秦野市の緑地分布図（市街化区域、市街化調整区域）

d 緑地の経年変化※

前回調査（平成 27 年（2015 年））と比較すると、5 年間で市全域約 148.1ha、率にして約 1.4 ポイントの緑地が減少しています。

主な変化の内訳は、山林が約 74.3ha(0.7 ポイント)、農地が約 113.6ha(1.1 ポイント)減少しています。



※ 「緑地の経年変化」

平成 10 年（1998 年）までは撮影空中写真、平成 22 年（2010 年）、平成 27 年（2015 年）、令和 2 年（2020 年）は都市計画基礎調査を参照

エ 施設緑地

施設緑地とは、都市公園法に基づいた「都市公園」と「都市公園以外」に区分されます。都市公園には、基幹公園・特殊公園・大規模公園・都市緑地等があります。また、都市公園以外には、公共施設緑地・民間施設緑地があります。

(ア) 都市公園

本市の整備状況は、街区公園 183 箇所、近隣公園 2 箇所、地区公園 1 箇所、運動公園 1 箇所、風致公園 1 箇所、歴史公園 1 箇所、広域公園 1 箇所、都市緑地 12 箇所の合計 202 箇所・106.03ha です。

| 名称 | | 令和 5 年度 (2023 年度) | | | | | |
|--------|------|-------------------|------------------|-------------------|--------------|--------------------|-------------------|
| | | 市街化区域 | | | 都市計画区域 | | |
| | | 箇所 | 面積(ha) | m ² /人 | 箇所 | 面積(ha) | m ² /人 |
| 住区基幹公園 | 街区公園 | 176 (172) | 15.07 (14.98) | 1.02 (1.00) | 183 (179) | 15.28 (15.19) | 0.95 (0.92) |
| | 近隣公園 | 2 (2) | 3.33 (3.33) | 0.22 (0.22) | 2 (2) | 3.33 (3.33) | 0.21 (0.20) |
| | 地区公園 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | 6.82 (6.82) | 0.42 (0.41) |
| 都市基幹公園 | 総合公園 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| | 運動公園 | 1 (1) | 17.75 (17.75) | 1.20 (1.18) | 1 (1) | 17.75 (17.75) | 1.10 (1.08) |
| 特殊公園 | 風致公園 | 1 (1) | 0.66 (0.66) | 0.04 (0.04) | 1 (1) | 0.66 (0.66) | 0.04 (0.04) |
| | 歴史公園 | 1 (1) | 1.02 (1.02) | 0.07 (0.07) | 1 (1) | 1.02 (1.02) | 0.04 (0.06) |
| 大規模公園 | 広域公園 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | 36.10 (36.10) | 2.25 (2.19) |
| 都市緑地 | 都市緑地 | 11 (11) | 14.40 (14.40) | 0.97 (0.96) | 12 (12) | 25.05 (25.05) | 1.56 (1.52) |
| 合計 | | 192 (188) | 52.25 (52.16) | 3.52 (3.48) | 202 (198) | 106.03 (105.94) | 6.60 (6.42) |

※端数処理により合計が合わない場合があります。

※ () 内は、平成 30 年度 (2018 年度) の数値

※ 1 人当たり面積の算出について、市街化区域人口は令和 2 年 (2020 年) 都市計画基礎調査結果の 148,468 人を使用、都市計画区域人口は令和 6 年 (2024 年) 4 月 1 日時点住民基本台帳人口 160,674 人を使用しています。

(イ) 都市公園以外

本市の整備状況は、公共施設緑地が、その他公園 3 箇所、その他緑地 10 箇所、広場 6 箇所、市民農園 49 箇所、教育施設 35 箇所、公共施設 71 箇所、その他 16 箇所の合計 191 箇所・299.27ha です。

民間施設緑地が、環境創出行為によるプレイロット 136 箇所、環境創出行為による緑地 933 箇所、ゴルフ場 5 箇所、その他 45 箇所の合計 1,119 箇所・353.63ha です。

| 名称 | | 令和5年度(2023年度) | | | | | |
|--------|--------------------|---------------|------------------|-------------------|----------------|--------------------|-------------------|
| | | 市街化区域 | | | 都市計画区域 | | |
| | | 箇所 | 面積 (ha) | m ² /人 | 箇所 | 面積 (ha) | m ² /人 |
| 公共施設緑地 | その他公園 | 3 (3) | 0.17 (0.17) | 0.01 (0.01) | 3 (3) | 0.17 (0.17) | 0.01 (0.01) |
| | その他緑地 | 8 (8) | 1.86 (1.86) | 0.13 (0.12) | 10 (10) | 2.20 (2.20) | 0.14 (0.13) |
| | 公共施設、 その他の広場 | 4 (4) | 4.00 (4.00) | 0.27 (0.27) | 6 (6) | 5.46 (5.46) | 0.34 (0.33) |
| | 市民農園 | 3 (3) | 0.35 (0.35) | 0.02 (0.03) | 49 (49) | 9.99 (9.99) | 0.62 (0.61) |
| | 教育施設 | 26 (27) | 37.69 (38.24) | 2.54 (2.55) | 35 (36) | 52.02 (52.58) | 3.24 (3.19) |
| | 公共施設 | 51 (46) | 29.36 (29.18) | 1.98 (1.95) | 71 (54) | 51.68 (45.90) | 3.22 (2.78) |
| | その他 | 7 (7) | 26.08 (25.93) | 1.76 (1.74) | 12+6 (10) | 177.75 (176.49) | 11.06 (10.77) |
| 合計 | | 102 (98) | 99.51 (99.73) | 6.70 (6.66) | 191 (168) | 299.27 (292.79) | 18.63 (17.82) |
| 民間施設緑地 | 環境創出行為 (プレイロット) | 117 (115) | 4.14 (3.77) | 0.28 (0.26) | 136 (129) | 5.44 (4.86) | 0.34 (0.29) |
| | 環境創出行為 (緑地) | 830 (731) | 21.48 (18.75) | 1.45 (1.25) | 933 (756) | 29.31 (23.31) | 1.82 (1.41) |
| | ゴルフ場 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 5 (5) | 272.69 (272.69) | 16.97 (16.53) |
| | その他 | 38 (38) | 42.89 (47.12) | 2.89 (3.14) | 45 (47) | 46.19 (64.41) | 2.88 (3.88) |
| 合計 | | 985 (884) | 68.51 (69.64) | 4.61 (4.65) | 1,119 (937) | 353.63 (365.27) | 22.01 (22.11) |

※端数処理により合計が合わない場合があります。

※ () 内は、平成30年度(2018年度)の数値

※1人当たり面積の算出について、市街化区域人口は令和2年(2020年)都市計画基礎調査結果の148,468人を使用、都市計画区域人口は令和6年(2024年)4月1日時点住民基本台帳人口160,674人を使用しています。

オ 地域制緑地

地域制緑地とは、法や条例等による規制により、良好な環境を保全する地域です。

(ア) 法によるもの

本市の状況は、生産緑地地区、自然公園（国定公園）、農業振興地域農用地区域、保安林区域、自然共生サイトの合計8,433.99haです。

| 名称 | | 令和5年度（2023年度） | | | |
|--------|----------------------------------|--------------------|-------------------|------------------------|--------------------|
| | | 市街化区域 | | 都市計画区域 | |
| | | 面積 (ha) | m ² /人 | 面積 (ha) | m ² /人 |
| 法によるもの | 生産緑地地区 （生産緑地法） | 91.10 (100.80) | 6.14 (6.72) | 91.10 (100.80) | 5.67 (6.11) |
| | 丹沢大山国定公園 （自然公園法） | 0 (0) | 0 (0) | 3,938.00 (3,938.00) | 245.09 (238.67) |
| | 農業振興地域農用地区域 （農業振興地域の整備に関する法律） | 0 (0) | 0 (0) | 678.37 (715.58) | 42.22 (43.37) |
| | 保安林区域 （森林法） | — (—) | — (—) | 3,715.00 (3,719.00) | 231.21 (225.40) |
| | 自然共生サイト （地域生物多様性増進法関連） | 11.52 (0) | 0.78 (0) | 11.52 (0) | 0.72 (0) |
| 合計 | | 102.62 (100.80) | 6.14 (6.72) | 8,433.99 (8,473.38) | 524.91 (513.55) |

※端数処理により合計が合わない場合があります。

※（ ）内は、平成30年度（2018年度）の数値

※1人当たり面積の算出について、市街化区域人口は令和2年（2020年）都市計画基礎調査結果の148,468人を使用、都市計画区域人口は令和6年（2024年）4月1日時点住民基本台帳人口160,674人を使用しています。

(イ) 条例等によるもの

本市の状況は、自然公園（県立自然公園）、自然環境保全地域、樹林保全地区、保存樹木、生垣の設置、生き物の里、かながわのナショナル・トラスト緑地の合計 474.84ha です。

| 名称 | | 令和5年度（2023年度） | | | |
|----------|-------------------------------|------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| | | 市街化区域 | | 都市計画区域 | |
| | | 面積 (ha) | m ² /人 | 面積 (ha) | m ² /人 |
| 条例等によるもの | 県立丹沢大山自然公園 (県立自然公園条例) | 7.90 (7.90) | 0.53 (0.53) | 290.00 (290.00) | 18.05 (17.58) |
| | 三廻部浅間山自然環境保全地域 (県自然環境保全条例) | 0 (0) | 0 (0) | 47.10 (47.10) | 2.93 (2.86) |
| | 菩提向山自然環境保全地域 (県自然環境保全条例) | 0 (0) | 0 (0) | 28.70 (28.70) | 1.79 (1.74) |
| | 田原・蓑毛自然環境保全地域 (県自然環境保全条例) | 0 (0) | 0 (0) | 91.30 (91.30) | 5.68 (5.53) |
| | 樹林保全地区 (秦野市みどり条例) | 9.27 (9.66) | 0.62 (0.64) | 9.27 (9.66) | 0.58 (0.59) |
| | 生垣の設置 (秦野市生垣設置奨励補助金交付要綱) | 0 (15,089.4m) | 0 (0.10) | 0 (1.52m) | 0 (0.09) |
| | 生き物の里 (秦野市みどり条例) | 0 (0) | 0 (0) | 2.86 (2.70) | 0.18 (0.16) |
| | かながわの ナショナル・トラスト緑地 | 5.61 (5.64) | 0.38 (0.38) | 5.61 (5.64) | 0.35 (0.34) |
| | 合計 | 22.78 (23.20) | 1.53 (1.55) | 474.84 (475.10) | 29.55 (28.80) |
| | 保存樹木 (秦野市みどり条例) | 30本 (29本) | — (—) | 30本 (29本) | — (—) |

※端数処理により合計が合わない場合があります。

※（ ）内は、平成30年度（2018年度）の数値

※平成29年度（2017年度）末に秦野市生垣設置奨励補助金廃止

※1人当たり面積の算出について、市街化区域人口は令和2年（2020年）都市計画基礎調査結果の148,468人を使用、都市計画区域人口は令和6年（2024年）4月1日時点住民基本台帳人口160,674人を使用しています。

カ 里山

標高 300m未満の森林で、人の手を入れて積極的に保全再生する地域です。

(ア) 里山

本市の状況は、森林面積 5,426ha のうち、約 1,066ha です。

| 名称 | 面積 (ha) |
|-----|---------|
| 針葉樹 | 289 |
| 広葉樹 | 743 |
| 竹 | 34 |
| 合計 | 1,066 |

(イ) 里山の保全再生整備

里山の保全再生整備は、山林所有者と市が協約を結び、事業者に委託して整備する「ふるさと里山整備事業」、事業者に委託し、森林施業の集約化を図り、持続可能な人工林の整備を行う「地域水源林長期施業受委託事業」及び、市と山林所有者とボランティア団体との三者で利用協定を結びボランティア団体が整備する「里山ふれあいの森づくり事業」があります。

| 名称 | 令和5年(2023) |
|----------------|------------|
| | 整備面積 (ha) |
| ふるさと里山整備事業 | 7.70 |
| 地域水源林長期施業受委託事業 | 30.50 |
| 里山ふれあいの森づくり事業 | 31.95 |
| 合計 | 70.15 |

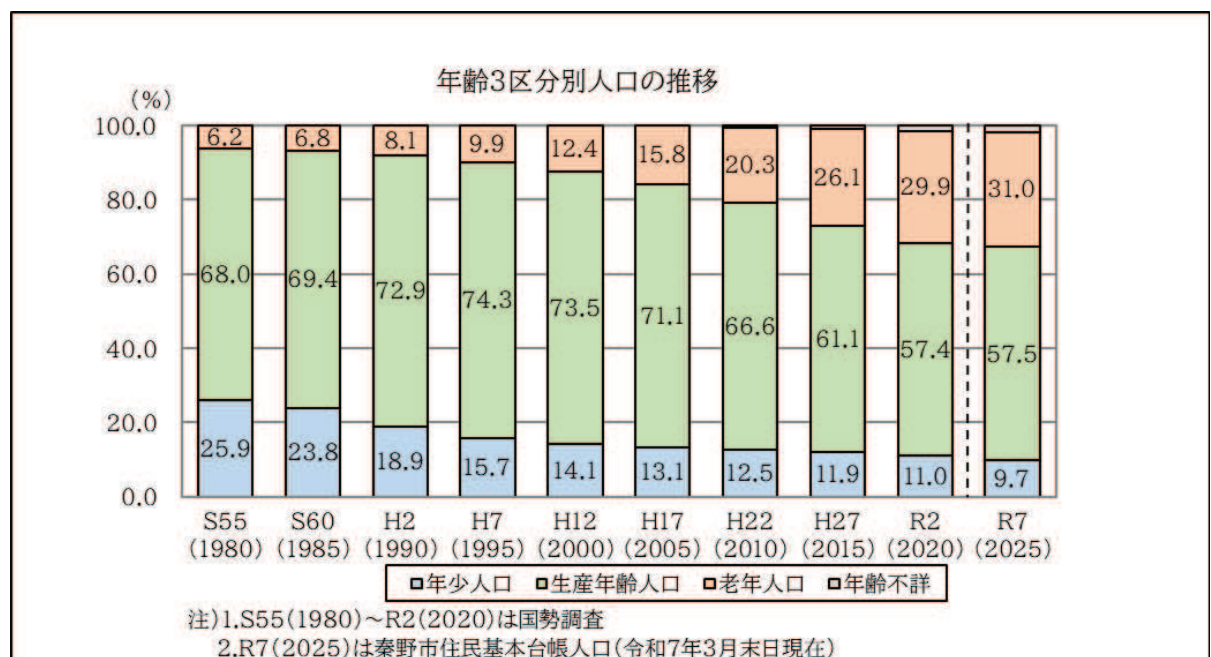
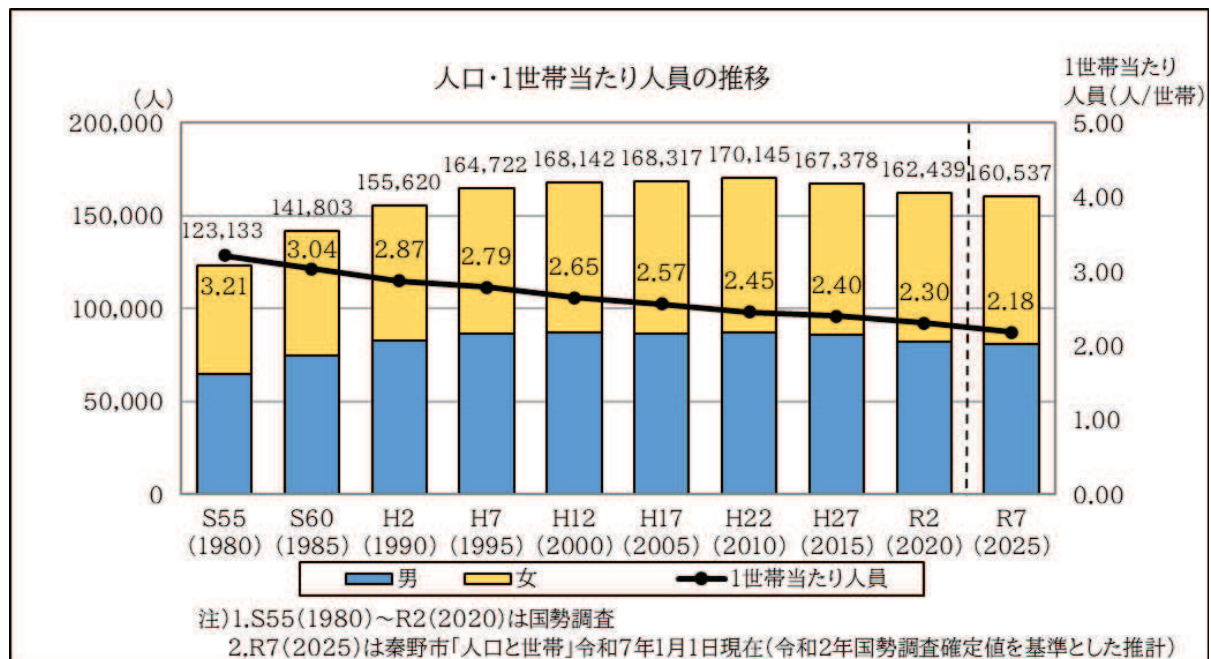
(2) みどりに関する社会的状況

ア 人口・世帯

本市の人口は、令和7年（2025年）1月1日時点で160,537人となっており、平成22年（2010年）の170,145人をピークに人口が減少しています。

1世帯当たりの人員は、昭和55年（1980年）に3.21人だったものが、令和7年（2025年）には2.18人と年々減少してきており、核家族化の進行がうかがえます。

総人口に対する老年人口（65歳以上）の割合は、令和7年（2025年）で31.0%となっており、約3人に1人が高齢者となっています。

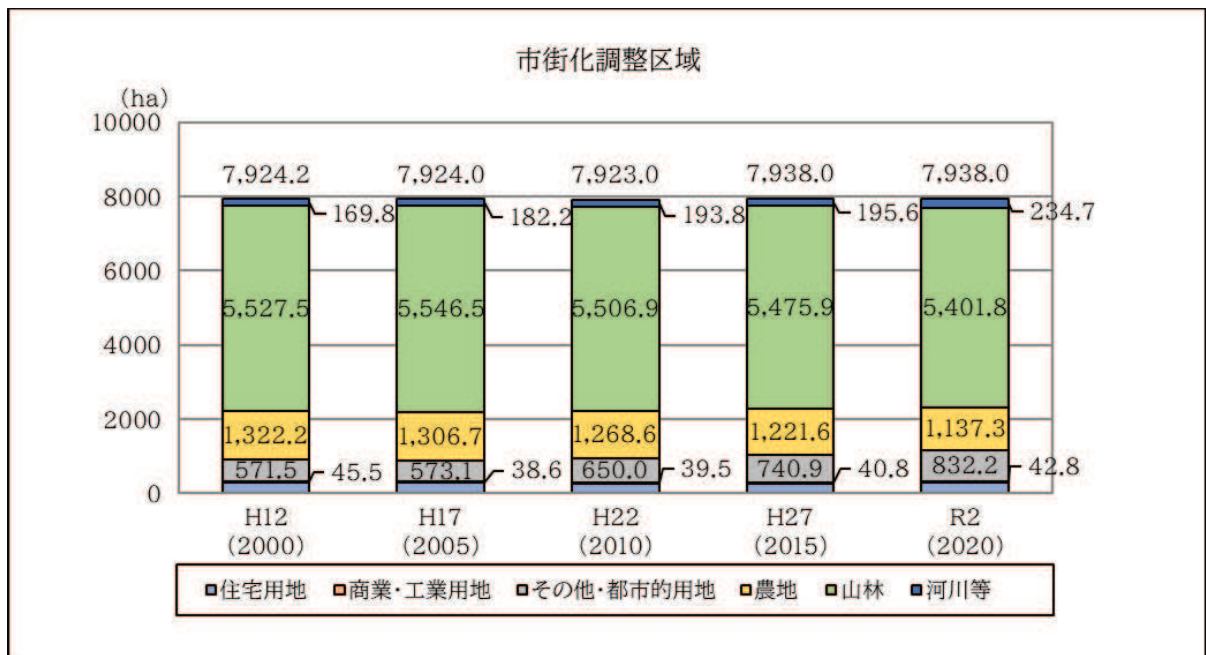
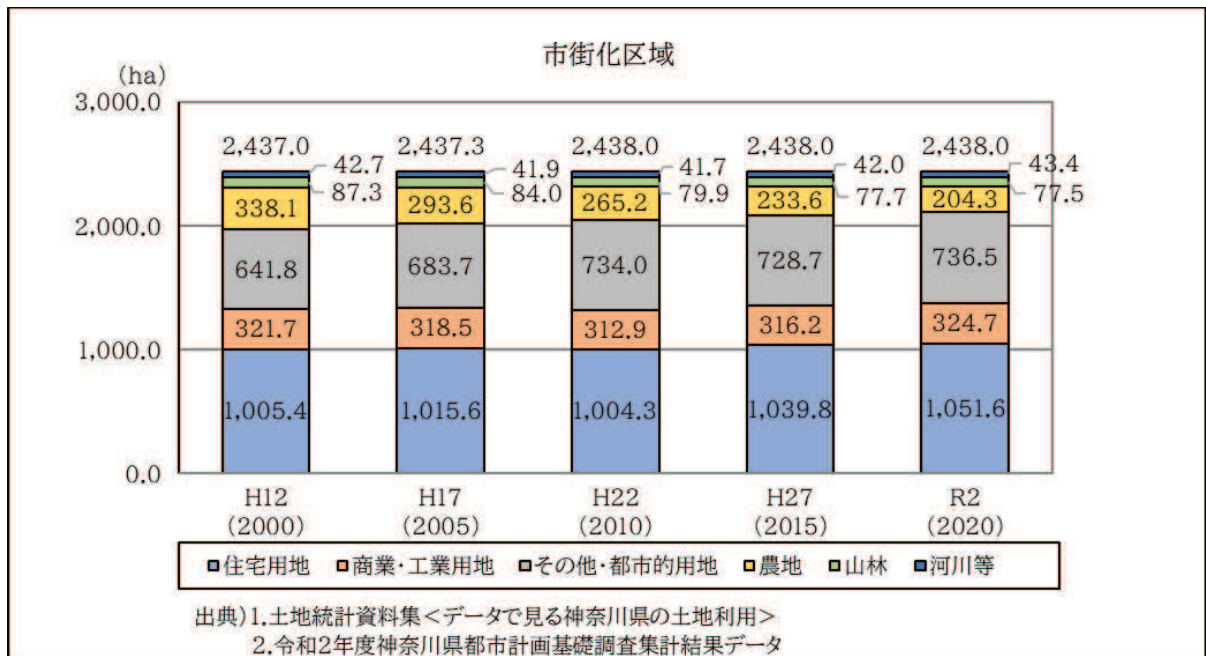


イ 土地利用

本市は、昭和30年（1955年）1月1日に市制を施行し、同年4月15日に大根村の一部を、昭和38年（1963年）1月1日に西秦野町をそれぞれ編入合併し、令和7年（2025年）1月1日に市制施行70周年を迎え、今日に至っています。

市街化状況は、盆地の中央で江戸時代から市が開かれて十日市場と呼ばれていた本町四ツ角を中心に集積し、小田急線の4駅を各々核として周辺地域に市街地が形成しています。一方、市街地の周辺には農地が広がり、市を取り囲む丹沢山地・渋沢丘陵に続いています。丹沢山地の自然環境は、自然公園法に基づく自然公園区域などにより保全されています。

このように、本市は都市の利便性と田園の自然性の両面が存在し、住宅地が自然に囲まれた都市環境にあります。



エ 上位関連計画における社会情勢

令和3（2021）年3月に秦野市みどりの基本計画を策定して以降、みどりを取り巻く国際情勢や国・県の動向、本市の上位・関連計画が下記のとおり変化してきました。

これからのみどりに関する取り組みのキーワードとして、地球温暖化対策（カーボンニュートラル）、気候変動・災害激甚化への対応（地域レジリエンス）、生物多様性への配慮（ネイチャーポジティブの実現）、グリーンインフラの活用等があげられます。

(ア) 国際情勢又は国の動向

| 関係法令・関連計画等 | 策定及び改定年月 | 概要 |
|------------------------------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地球温暖化対策計画 | 令和3年10月 | ○2030年度において、温室効果ガス46%削減（2013年度比）を目指すこと、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるための対策・施策を記載 |
| 生物多様性国家戦略2023-2030 | 令和5年3月 | ○新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に対応した戦略 ○2030年に陸と海の30%以上を保全する30by30目標の達成、ネイチャーポジティブの実現を目指した国家戦略 |
| 気候変動適応計画 | 令和5年5月 | ○防災、安全保障、農業、健康等の幅広い分野で適応策の拡充 ○気候変動適応の一分野である熱中症対策を強化するための対策・施策を記載 |
| グリーンインフラ推進戦略2023 | 令和5年9月 | ○「自然と共生する社会」の実現に向け、あらゆる場面・分野において自然環境の持つ多様な機能を活用し、様々な社会課題の解決するための戦略 |
| 持続可能な開発目標（SDGs）実施指針 | 令和5年12月 | ○2030年の国内外でのSDGs達成を目指す ○我が国が直面する人口減少や少子高齢化に対し、持続可能な発展と繁栄の観点からSDGsの取り組みを強化・加速させる実施指針 |
| 第六次環境基本計画 | 令和6年5月 | ○環境を軸とした環境・経済・社会の統合的向上の次なるステップを示す ○「Well-being／高い生活の質」の実現を目指す ○環境負荷の総量削減と良好な環境の創出等 |
| 都市緑地法の一部を改正する法律（令和6年法律第40号） | 令和6年11月施行 | ○都市の緑地を質・量の両面で確保し、良好な都市環境を実現するため改正 ○国主導による戦略的な都市緑地の確保、貴重な都市緑地の積極的な保全・更新、緑と調和した都市環境整備への民間投資の呼び込み等を強化する ○優良緑地確保計画認定制度（「TSUNAGツナグ」）等の新たな制度運用を開始予定 |
| 都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針（通称「緑の基本方針」） | 令和6年12月施行 | ○都市緑地法の改正を受け、国土交通大臣が都市における緑地の保全等に関する基本方針を策定 ○緑地の保全及び緑化の推進の目標として「環境への負荷が小さいカーボンニュートラル都市」、「人と自然が共生するネイチャーポジティブを実現 |

| 関係法令・関連計画等 | 策定及び改定年月 | 概要 |
|-----------------------------------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | した都市」、「Well-beingが実感できる水と緑豊かな都市」を設定 |
| 地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律 (通称「地域生物多様性増進法」) | 令和7年4月 施行 | ○地域における生物の多様性の増進のための活動を促進することを目的とする法律 ○企業等が地域において生物多様性増進活動を行うおとす際の「増進活動実施計画」の認定、市町村が地域の多様な主体と連携する「連携増進活動実施計画」の認定、「生物多様性維持協定」締結制度の創設等を行い、地域における長期的・安定的な活動を可能とする方針を示す |

(イ) 県の動向

| 関連計画等 | 策定及び改定年月 | 概要 |
|----------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| かながわ都市マスタープラン | 令和3年3月 | ○都市環境と自然的環境がともに調和し、自然や地形などを考慮して水やみどりの適切な保全と活用、地域の実情に応じた土地利用と地域資源や既存ストックの有効活用を目指す |
| 新かながわブランドデザイン | 令和6年3月 | ○「いのち輝くマグネット神奈川」の実現 ○県民一人ひとりのいのちを輝かせるとともに、人やものを引きつける魅力を持った神奈川の実現をめざす ○多くの人を訪れ、にぎわう湘南のなぎさや丹沢大山など美しい自然環境、歴史・文化に恵まれた湘南地域の価値や魅力を生かして、定住人口の維持や交流人口の増加に取り組む |
| かながわ生物多様性計画2024-2030 | 令和6年3月 | ○生物多様性の世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」及び「生物多様性国家戦略2023-2030」を踏まえ、改定 ○地域の特性に応じた生物多様性の保全、生物多様性の理解と保全行動の促進を図る |
| 神奈川県環境基本計画 | 令和6年3月 | ○深刻化する気候変動の影響や生物多様性の損失といった危機に対応し、持続可能な社会を形成していくため、改定 ○経済・社会・環境のバランスがとれた社会を目指し、統合的な課題解決を目指す |
| 神奈川県地球温暖化対策計画 | 令和6年3月 | ○脱炭素社会の実現に向けた基本的な考え方や各種目標、施策体系などについて改定 ○2050年脱炭素社会(カーボンニュートラル)の実現に加え、2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で50%削減することを目指す |

(ウ) 市の上位・関連計画

| 関連計画等 | 策定及び改定年月 | 概要 |
|---------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| はだの一世紀の森林づくり構想 | 平成20年5月 | ○森林を市民共有の財産としてとらえ、50年かけて森林整備を推進して荒廃林を解消し、その後50年は森林を適正に維持管理することによって100年後には市内の森林を再生することを目指す |
| 表丹沢魅力づくり構想 | 令和2年9月 | ○表丹沢一帯にある様々な分野の資源を磨き、つなげ、新たに触れる機会を増やすことで、市民には表丹沢の魅力を再認識していただき、愛着や誇り（シビックプライド）の醸成につなげる ○表丹沢の本物の魅力を効果的な方法で発信することで、市外からも多くの方に2度、3度と訪れていただき、第2のふるさととしての関係性を築くことを目指す。 |
| ゼロカーボンシティ表明 | 令和3年2月 | ○2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明 ○秦野市の普遍的財産である「水とみどり」を未来へ引き継ぐことができるよう、二酸化炭素の排出を抑制する「緩和策」と温暖化による気候変動の影響を回避する「適応策」との両輪による取り組みを進める |
| 秦野市総合計画（はだの2030プラン） | 令和3年3月 | ○都市像「水とみどりに育まれ 誰もが輝く 暮らしよい都市（まち）」の実現に向け、5つの基本目標を柱に施策を展開 ○人口規模の想定として、令和12年（2030年）157,000人を設定 ○基本目標3 名水の里の豊かな自然と共生し安全・安心に暮らせるまちづくりでは、環境と共生する快適な暮らしの確保、地域特性を生かした都市農業の振興、持続可能な森林整備と里山林の保全を政策として掲げる |
| 秦野市都市マスタープラン | 令和3年3月 | ○都市の持続可能性の確保、広域的交通環境への対応、自然環境の保全、安全・安心・快適性の確保、景観に配慮したまちづくりを進める ○本市のシンボルである水無川及びその周辺は、自然環境とのふれあいや良好な交通環境を創出する「水とみどりのふれあい軸」として位置付ける |
| 秦野市地下水総合安全管理計画 | 令和3年3月 | ○名水百選「秦野盆地湧水群」を育み、「市民共有の財産」として、使い・守り・育て・伝えていくことを目的とする ○「秦野水循環モデル」のもと地下水をマネジメントし、「秦野名水名人」の仕組みを加え、市民や事業者との協働による取り組みを充実して策定 |
| 秦野市地球温暖化対策実行計画 | 令和4年3月 | ○2050年に市域全体の二酸化炭素排出実質ゼロ【ゼロカーボンシティ】の実現を目指す ○気候変動に対する対応を図り、地球温暖化対策を緩和と適応の両面から取り組むための計画 |

| 関連計画等 | 策定及び改定年月 | 概要 |
|--------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第3次秦野市環境基本計画 | 令和3年3月 | <ul style="list-style-type: none"> ○「地域循環共生圏の構築」を重点戦略に位置付け、さらに、環境課題を横断的に捉える「はぐくむ・そなえる・つなげる」の視点により、持続可能な施策を進める ○里山山地の保全、水源かん養、生物多様性の保全再生、森林セラピーのような新たな利活用方法の模索 ○地下水を市民共有の財産である資源とした管理を図る ○農地の減少及び担い手不足による荒廃農地の増加への対応、農地の集積・集約化を図り、既存農地の有効活用と保全 ○市街地の緑地や生き物の里の環境維持に努め、生物調査の実施や外来種の駆除推進等、生物多様性を地域資源とする持続可能な利用を推進 |
| 秦野市地域防災計画 | 令和4年3月 | <ul style="list-style-type: none"> ○公園、緑地は、火災時における延焼遮断効果とともに市民の安全を確保するための避難地等として有効に機能するため、緑の基本計画を基調に適正な配置に努める |
| 秦野市森林整備計画 | 令和5年3月 | <ul style="list-style-type: none"> ○本市における森林・林業の現状と課題を踏まえた施策の方向性などを加え、秦野のかけがえのない森林の管理・保全について、基本方針を定める ○「森林生態系の保全・再生と水源の森林づくり」、「森林資源の持続可能な利用と地域産業づくり」、「森林とのふれあいと市民参加の森林づくり」の3つの視点から基本施策を定め、森林づくりを進める |
| 秦野市景観形成基本計画 | 令和5年4月 | <ul style="list-style-type: none"> ○秦野の景観資源である表丹沢の「山並み景観」をはじめ、「里山・田園景観」「水辺景観」「歴史・文化の景観」「街の景観」等に関して、引き続き良好な景観を守りながら更なる魅力を発信し、誇りと愛着ある景観まちづくりを推進 |
| ネイチャーポジティブ宣言 | 令和7年4月 | <ul style="list-style-type: none"> ○水とみどりに育まれた豊かな自然環境を未来に引き継いでいくため、2030年を目標に生物多様性を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現を目指すことを宣言 |
| 秦野市立地適正化計画 | 令和8年3月 | <ul style="list-style-type: none"> ○市街化区域内に、「都市機能誘導区域」と「居住誘導区域」を設定するとともに、生活の利便性が高い「コンパクトなまちづくり」の指針 ○長期的な視点のもと、国の施策等を活用して都市機能や居住を一定のエリアに誘導し、将来にわたり都市機能の維持を図る |
| 渋沢丘陵周辺土地利用構想 | 令和8年度予定 | <ul style="list-style-type: none"> ○渋沢丘陵周辺地域の豊かな自然環境の保全と地域の持続的な発展を両立させるため、246バイパスの開通を見据え、豊かな自然と調和した交流とにぎわいのある地域づくりを目指すもの |

(3) 生き物に関する状況

ア 生き物の里

本市では、「秦野市みどり条例」に基づき、希少な、または貴重な野生の生き物が生育、又は生息している谷戸田や湧水地を「生き物の里」として指定しています。現在、「生き物の里」は下表の7箇所が指定されています。生き物の里の管理運営は地域住民が担っており、ビオトープの維持など、それぞれの地域に適した生物多様性の環境づくりが進められています。

| 指定番号 | 指定地域 | 指定時期 | 面積 | 生息している主な生き物 |
|------|------|---------|----------------------|------------------------------------|
| 1 | 柳川 | 平成14年3月 | 6,118 m ² | ホトケドジョウ・アカハライモリ・シュレーゲルアオガエル・ゲンジボタル |
| 2 | 渋沢 | 平成16年4月 | 3,255 m ² | ホトケドジョウ・アズマヒキガエル・ヘイケボタル |
| 3 | 峠 | 平成18年7月 | 2,639 m ² | ホトケドジョウ・デンジソウ・アカガエル・オニヤンマ |
| 4 | 名古木 | 平成19年8月 | 1,211 m ² | ホトケドジョウ・アカハライモリ |
| 5 | 千村 | 平成23年4月 | 6,919 m ² | ホトケドジョウ・アカハライモリ |
| 6 | 深沢 | 平成23年4月 | 7,088 m ² | ホトケドジョウ・アカハライモリ |
| 7 | 尾尻 | 令和6年3月 | 1,321 m ² | ホトケドジョウ・ヤマトヌマエビ・アブラハヤ |



イ 生き物の現況調査

人間の活動や環境の変化により、生物多様性が失われつつあります。貴重な生物多様性を保全するためには、私たちを取り巻く環境の中で、どのような生物が生息しているのか、その現状を把握する必要があります。本市では、市内の代表的な生き物の生育・生息状況を確認するための生物調査を定期的を実施しています。

地域環境を代表する指標種^{※1}は、現状を把握するための「ものさし」として活用することができます。今回実施した生物調査では、平成22年(2010年)に実施した生物調査^{※2}を参考に指標種や調査地を選定しました。

生物調査の結果は、過年度の調査結果と比較することで、市内の環境保全や変化状況を把握し、今後の施策検討における基礎材料にすることを目的としています。

(ア) 調査方法

2年間をワンサイクルとしてルートセンサス法^{※3}により以下の方法で調査を実施し、指標種の有無を記録しました。

a 調査地点

市内を代表する自然環境を3つに区分し、各地点での調査を実施

- A 市内6地区の水田・雑木林：26箇所（水田12箇所、雑木林14箇所）の植物・動物
- B 市街化地区の公園、神社：10箇所（公園6箇所、神社4箇所）の水田及び雑木林の植物・動物
- C 河川：15箇所（大根川、金目川、葛葉川、四十八瀬川、水無川、室川）

b 調査期間

令和5年（2023年）4月から令和7年（2025年）3月まで

※季節や昼夜など条件を変えて複数回以上実施

c 確認方法

- ・ 指標植物の調査は、植物が確認できる時期を見計らい1年で2回の調査を実施。水田の場合は稲作が行われている場合があるため、稲に影響が出ないように、畦からのぞき込み調査を行う。
- ・ 指標動物の調査は、植物同様1年で2回の調査を実施。タモ網、捕虫網を用いての捕獲調査や飛翔個体の目視や鳴き声を頼りに調査を実施。

※1 「指標種」

秦野市生物多様性地域連携保全活動計画の指標種（平成22年（2010年）4月）を参考に、雑木林、水田でそれぞれ25種選定し、指標種とは別に外来種・要注意種も確認項目に加えました。河川の指標種については、相模川及び酒匂川水系で5年毎に実施されている神奈川県民参加型調査の動植物57種にアメリカザリガニ、ウシガエルなどの外来種を追加しました。

※2 「平成22年(2010年)に実施した生物調査」

秦野市自然環境調査報告書（環境保全活動拠点19箇所の結果報告）

※3 「ルートセンサス法」

あらかじめ決めたルートに沿って、動植物の調査をする方法。

(参考) 調査地点一覧



水田



雑木林



公園・神社



河川



<水田及び雑木林の調査場所>

| No. | 水田 No. | 雑木林 No. | 調査地名 | 備考（調査場所） |
|-----|-----------|------------|--------------------------------|-------------|
| 1 | 1 | | 菩提：わさびや茶園下流水田 | 水田植物、水田動物 |
| 2 | 2 | | 東田原1:田原ふるさと公園 | 水田植物、水田動物 |
| 3 | 3 | | 名古屋1:NPOドン会活動拠点 | 水田植物、水田動物 |
| 4 | 4 | | 名古屋2:道栄塚、窪地の湿地、放棄水田 | 水田植物、水田動物 |
| 5 | 5 | | 柳川：柳川生き物の里 | 水田植物、水田動物 |
| 6 | 6 | | 堀西：オ戸橋から甘柿橋間の水田(ヤマモゴルフガーデン東) | 水田植物、水田動物 |
| 7 | 7 | | 千村：若竹の泉付近の水田 | 水田植物、水田動物 |
| 8 | 8 | | 渋沢1：渋沢生き物の里 | 水田植物、水田動物 |
| 9 | 9 | | 今泉1：震生湖、秦野の雑木林を守る会管理地 | 水田植物、水田動物 |
| 10 | 10 | | 今泉2：小藤川勇水地 | 水田植物、水田動物 |
| 11 | 11 | | 北矢名1:南蛇久保、弘法山南傾斜、水田 | 水田植物、水田動物 |
| 12 | 12 | | 鶴巻：水田、舞台 | 水田植物、水田動物 |
| 13 | | 1 | 横野：萩山林道沿い、林道入り口付近、戸川公園 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 14 | | 2 | 東田原2:東京電力パワーグリッド新秦野変電所周囲の雑木林 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 15 | | 3 | 羽根：羽根林道、アノウサークル管理地 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 16 | | 4 | 名古屋1:NPOドン会活動拠点 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 17 | | 5 | 菘毛：菘毛自然観察の森 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 18 | | 6 | 名古屋3:名古屋里山を守る会活動拠点 第一里山 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 19 | | 7 | 柳川2：上公民館から太平洋ゴルフクラブ入り口の雑木林 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 20 | | 8 | 渋沢2：頭高山付近、渋沢小学校学習林 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 21 | | 9 | 渋沢1：渋沢生き物の里 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 22 | | 10 | 今泉1：震生湖、秦野の雑木林を守る会管理地 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 23 | | 11 | 南が丘：立野緑地 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 24 | | 12 | 上大槻：菅原神社 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 25 | | 13 | 曾屋1：弘法山馬場道北斜面綿羊の里付近 | 雑木林植物、雑木林動物 |
| 26 | | 14 | 曾屋2：弘法山公園入口から浅間山駐車場までのハイキングコース | 雑木林植物、雑木林動物 |

<公園・神社の調査場所>

| No. | 公園 No. | 神社 No. | 調査地名 | 備考（調査場所） |
|-----|-----------|-----------|-------------------|-----------------------|
| 1 | 1 | | 公園1：カルチャーパーク運動公園 | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 2 | 2 | | 公園2：曾屋公園(旧 曾屋配水場) | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 3 | 3 | | 公園3：今泉あらい湧水公園 | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 4 | 4 | | 公園4：今泉名水桜公園 | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 5 | 5 | | 公園5：いまいずみほたる公園 | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 6 | 6 | | 公園6：おおね公園 | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 7 | | 1 | 神社1：出雲大社相模分祠 | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 8 | | 2 | 神社2：曾屋神社 | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 9 | | 3 | 神社3：白笹稻荷神社 | 水田植物、水田動物、雑木林植物、雑木林動物 |
| 10 | | 4 | 神社4：健速神社 | 雑木林植物、雑木林動物 |

<河川の調査場所>

| No. | 調査地名 | No. | 調査地名 |
|-----|---------------|-----|------------|
| 1 | 大根川①大根公園 | 9 | 四十八瀬川中流 |
| 2 | 大根川②オレンジヒル自治会 | 10 | 四十八瀬川②県民の森 |
| 3 | 金目川①南平橋 | 11 | 水無川①平和橋 |
| 4 | 金目川②みのげキャンプ場 | 12 | 水無川②人道橋 |
| 5 | 金目川中流 | 13 | 水無川③山の神 |
| 6 | 葛葉川(四山橋) | 14 | 室川①新常盤橋 |
| 7 | 葛葉川下流 | 15 | 室川②若竹の泉 |
| 8 | 四十八瀬川①河内橋 | | |

(参考) 指標種一覧

(水田・雑木林の指標種一覧)

| No. | 指標種 | | | |
|-----|-----------|-------------|-----------|--------------|
| | 水田 | | 雑木林 | |
| | 植物 | 動物 | 植物 | 動物 |
| 1 | オモダカ | ヤマアカガエル | カンアオイ類 | アオスジアゲハ |
| 2 | ヘラオモダカ | ニホンアカガエル | ヒトリシズカ | モンキアゲハ |
| 3 | ミズオオバコ | トウキョウダルマガエル | フタリシズカ | ジャコウアゲハ |
| 4 | ヒガンバナ | シュレーゲルアオガエル | テンナンショウ類 | オオムラサキ |
| 5 | ガマ類 | ツチガエル | ホウチャクソウ | キマラダヒカゲ類 |
| 6 | コナギ | ニホンイモリ | ホトトギス | クロコノマチョウ |
| 7 | タガラシ | ドジョウ | ヤマユリ | ハラビロカマキリ |
| 8 | キツネノボタン類 | ホトケドジョウ | キンラン | フキバッタ類 |
| 9 | ワレモコウ | タイコウチ | ギンラン | ハヤシノウマオイ |
| 10 | アカバナ | ミズカマキリ | エビネ | クツワムシ |
| 11 | チョウジタデ | ヒメアメンボ | シュンラン | エゾツユムシ |
| 12 | ミゾソバ類 | シマアメンボ | オオバギボウシ | マツムシ |
| 13 | サクラタデ類 | オニヤンマ | ヤブラン | ナナフシ類 |
| 14 | ミミナグサ | ハグロトンボ | ニリンソウ | アブラゼミ |
| 15 | ノミノフスマ | シオカラトンボ | タチツボスミレ | ミンミンゼミ |
| 16 | ツリフネソウ | ゲンジボタル | ヤブコウジ | ヒグラシ |
| 17 | ムラサキサギゴケ | ヘイケボタル | イカリソウ | ハンミョウ |
| 18 | ミゾホオズキ | ガムシ | イチヤクソウ | オオヒラタシデムシ |
| 19 | ツリガネニンジン | シマゲンゴロウ | リンドウ | カブトムシ |
| 20 | ミゾカクシ | サワガニ | ヤマルリソウ | クロカナブン |
| 21 | ノアザミ | マルタニシ | アキノタムラソウ | ヤマトタマムシ |
| 22 | コオニタビラコ | カワニナ | キッコウハグマ | スズメバチ類 |
| 23 | カントウヨメナ | サギ類 | オケラ | カラ類 |
| 24 | タウコギ | シギ・チドリ類 | ヤブレガサ | キツツキ類 |
| 25 | セリ | カヤネズミ | シラヤマギク | 夕姍・アゲマの痕跡 |
| 外来種 | セリバヒエンソウ | ウシガエル | ナガミヒナゲシ | アカボシゴマダラ |
| | オオフサモ | カダヤシ | セリバヒエンソウ | アオマツムシ |
| | アレチヌスビトハギ | アメリカザリガニ | アレチヌスビトハギ | クマゼミ |
| | オランダガラシ | サカマキガイ | マルバフジバカマ | ムネアカハラビロカマキリ |
| | オオキンケイギク | スクミリンゴガイ | オオキンケイギク | ガビチョウ |
| その他 | | | ヤマビル | |

(河川の指標種一覧)

| No. | 指標種 | No. | 指標種 | No. | 指標種 |
|-----|---------------|-----|----------|-----|----------------|
| 1 | ナミウズムシ | 24 | シマドジョウ | 47 | カワラハハコ |
| 2 | カワニナ | 25 | ヤマメ・アマゴ | 48 | カワラヨモギ |
| 3 | サワガニ | 26 | カマキリ | 49 | カワラケツメイ |
| 4 | ヒラタカゲロウの仲間 | 27 | カジカ | 50 | セリ |
| 5 | モンカゲロウの仲間 | 28 | ボウズハゼ | 51 | カワセミ |
| 6 | カワゲラの仲間 | 29 | ウキゴリ | 52 | カワガラス |
| 7 | コオニヤンマ | 30 | ヨシノボリの仲間 | 53 | カワウ |
| 8 | オニヤンマ | 31 | シマヨシノボリ | 54 | サギ類 |
| 9 | ムカシトンボ | 32 | エビモ | 55 | キセキレイ |
| 10 | ヘビトンボの仲間 | 33 | ササバモ | 56 | カジカガエル |
| 11 | シマトビケラの仲間 | 34 | ホザキノフサモ | 57 | タゴガエル |
| 12 | ヒゲナガカワトビケラの仲間 | 35 | ススキ | 外来種 | オオカナダモ |
| 13 | ナガレトビケラの仲間 | 36 | オギ | | コカナダモ |
| 14 | カクツツトビケラの仲間 | 37 | ヨシ | | ハリエンジュ |
| 15 | アミカの仲間 | 38 | ツルヨシ | | シナダレスズメガヤ |
| 16 | ゲンジボタル | 39 | クサヨシ | | アレチウリ |
| 17 | イシビルの仲間 | 40 | マコモ | | オオフサモ |
| 18 | ミズムシ | 41 | ヤナギ類 | | アメリカザリガニ |
| 19 | テナガエビ・スジエビの仲間 | 42 | オオイヌタデ | | ウシガエル |
| 20 | ヌマエビの仲間 | 43 | ミゾソバ | | オオカワヂシャ |
| 21 | アブラハヤ | 44 | フサザクラ | | ミシシippiaアカミミガメ |
| 22 | ウグイ | 45 | ヒメレンゲ | | |
| 23 | カマツカ | 46 | タコノアシ | | |

(イ) 調査の結果概要

令和5年(2023年)4月から令和7年(2025年)3月までの調査結果の概要は次のとおりです。

| | | | 調査地点別での傾向 | 環境類型全体の傾向 | 外来種の傾向 |
|------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 公園神社 | 雑木林 | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・神社4【健速神社】において5種ほどが近年確認されなくなっている。 ・神社2【曾屋神社】において、キンランが確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・テンナンショウ類、ホウチャクソウ、ヤブラン等が確認されなくなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ナガミヒナゲシ、アレチヌスビトハギが確認されている。 |
| | | 動物 | <ul style="list-style-type: none"> ・神社1【出雲大社相模分祠】、神社2【曾屋神社】において4種ほどが近年確認されなくなっている。 ・神社3【白笹稻荷神社】において4種ほどが新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アブラゼミ、ミンミンゼミ等が確認されなくなっている。 ・アオスジアゲハ等が新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アカボシゴマダラ、アオマツムシ、クマゼミ、ガビチョウ等が確認されている。 |
| | 水田 | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園6【おおね公園】において2種ほどが近年確認されなくなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コガマ、アカバナ、ツリガネニンジン、セリ等が確認されなくなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アレチヌスビトハギ、オランダガラシ等が確認されている。 |
| | | 動物 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園3【今泉あらい湧水公園】、神社3【白笹稻荷神社】において3種ほどが近年確認されなくなっている。 ・公園6【おおね公園】において4種ほどが新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメアメンボ等が確認されなくなっている。 ・オニヤンマ等が新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウシガエル、アメリカザリガニが確認されている。 |
| 雑木林 | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋3【名古屋里山を守る会】において5種ほどが近年確認されなくなっている。 ・柳川2【上公民館】、渋沢1【渋沢生き物の里】、曾屋2【ハイキングコース】において1種ほどが新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・フタリシズカ、ホウチャクソウ、ホトトギス、ギンラン等が確認されなくなっている。 ・エビネ、シュンラン等が新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・セリバヒエンソウ、アレチヌスビトハギ、マルバフジバカマ等が確認されている。 | |
| | 動物 | <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋3【名古屋里山を守る会】で9種ほどが近年確認されなくなっている。 ・名古屋1【NPO ドン会活動拠点】において6種ほどが新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アオスジアゲハ、キマラダヒカゲ類、ミンミンゼミ、スズメバチ類等が確認されなくなっている。 ・ナナフシ類、カブトムシ、ヤマトタムシ等が新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・雑木林の外来種におけるすべての指標種が確認されている。 | |

| | | 調査地点別での傾向 | 環境類型全体の傾向 | 外来種の傾向 |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 水田 | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋Ⅰ【NPO ドン会活動拠点】、鶴巻【舞台】において6種ほどが近年確認されなくなっている。 ・菩提【わさび茶屋～】、今泉2【小藤川水田】において2種ほどが新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・チョウジタデ等が確認されなくなっている。 ・ガマ類等が新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・セリバヒエンソウ、オオフサモ、アレチヌスビトハギ、オランダガラシが確認されている。 |
| | 動物 | <ul style="list-style-type: none"> ・北矢名【南蛇久保～】、鶴巻【舞台】において3種ほどが近年確認されなくなっている。 ・菩提【わさび茶屋～】、東田原Ⅰ【ふるさと公園】において3種ほどが新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オニヤンマ、ハグロトンボ等が確認されなくなっている。 ・ヤマアカガエル等が新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカザリガニ、サカマキガイ、スクミリングガイが確認されている。 |
| 河川 | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・四十八瀬川中流において4種ほどが近年確認されなくなっている。 ・葛葉川(四山橋)、四十八瀬②川県民の森において3種ほどが新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オオイヌタデ、フサザクラ等が確認されなくなっている。 ・ミゾソバ等が新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハリエンジュ、アレチウリ、オオカワヂシャ等が確認されている。 |
| | 動物 | <ul style="list-style-type: none"> ・葛葉川下流において8種ほどが近年確認されなくなっている。 ・四十八瀬川②県民の森において7種ほどが新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヒゲナガカワトビゲラの仲間、ミズムシ、カジカガエル等が確認されなくなっている。 ・カワセミ、タゴガエル等が新たに確認されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカザリガニが確認されている。 |

※指標種の確認は、調査時期によって確認されないこともあり、長期的なデータを集めていく必要があります。

<参考資料>

環境DNA 調査結果

室川、葛葉川、四十八瀬川において環境DNA調査を行いました。四十八瀬川において、多くの種数が確認されました。調査結果の概要は次のとおりです。

| 関係市町村 | 秦野市 | 秦野市 | 秦野市 |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 調査ID | 24-Pro-05 | 24-Pro-48 | 24-Pro-49 |
| 水系 | 金目川 | 金目川 | 酒匂川 |
| 支川名 | 室川 | 葛葉川 | 四十八瀬川 |
| 調査年月日 | 令和6年(2024年)7月30日 | 令和6年(2024年)8月7日 | 令和6年(2024年)8月7日 |
| 検出種数 | ・8綱23目74科122種の動物が検出された。 | ・8綱24目73科143種の動物が検出された。 | ・6綱23目80科159種の動物が検出された。 |
| 高頻度検出種 (主な種) | <ul style="list-style-type: none"> ・ハクビシン ・ムカシツチガエル ・アブラハヤ/タカハヤ ・コイ(飼育型) ・ドジョウ(在来系統) ・ドジョウ(大陸系統) ・ホトケドジョウ ・オオヨシノボリ/ルリヨシノボリ ・ホシチョウバエ ・キアシツメトゲブユ ・ゴスジシラキブユ ・マダガガンボ ・サホコカゲロウ ・ウスイロフトヒゲコカゲロウ ・フタモンコカゲロウ ・ヨシノコカゲロウ ・ウデマカリコカゲロウ ・アカマダラカゲロウ ・エラブタマダラカゲロウ ・シロタニガワカゲロウ ・エサキモンキツノカメムシ ・アブラゼミ ・ニイニイゼミ ・ヒグラシ ・アシナガアリ ・テラニシシリアゲアリ ・ムネアカハラビロカマキリ ・コヤマトンボ ・ウルマーシマトビケラ ・ナミコガタシマトビケラ ・マミズクラゲ | <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ ・アブラハヤ/タカハヤ ・タカハヤ ・ウグイ ・ハマダラカ属 ・ナミカ属 ・ホシチョウバエ ・キアシツメトゲブユ ・ゴスジシラキブユ ・マダガガンボ ・フタバコカゲロウ ・サホコカゲロウ ・Jコカゲロウ ・ウスイロフトヒゲコカゲロウ ・フタモンコカゲロウ ・ヨシノコカゲロウ ・イシワタマダラカゲロウ ・クシゲマダラカゲロウ ・アカマダラカゲロウ ・エラブタマダラカゲロウ ・シロタニガワカゲロウ ・マツムラヒラタカゲロウ ・ヒメヒラタカゲロウ ・アブラゼミ ・ミンミンゼミ ・ムネアカハラビロカマキリ ・ヘビトンボ ・マダラスズ ・ウルマーシマトビケラ ・コガタシマトビケラ ・ナミコガタシマトビケラ ・ミナカワトゲタニガトビケラ | <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ ・カジカガエル ・アブラハヤ/タカハヤ ・タカハヤ ・カジカ ・ヨシノボリ属 ・ニホンアミカ/ヒメナミアミカ ・ホシチョウバエ ・アオキツメトゲブユ ・キアシツメトゲブユ ・アシマダラブユ ・ゴスジシラキブユ ・ウチダツノマユブユ ・マダガガンボ ・フタバコカゲロウ ・サホコカゲロウ ・Jコカゲロウ ・フタモンコカゲロウ ・ヨシノコカゲロウ ・コバネヒゲトガリコカゲロウ ・ヨシノマダラカゲロウ ・イシワタマダラカゲロウ ・イマニシマダラカゲロウ ・クシゲマダラカゲロウ ・アカマダラカゲロウ ・フタスジモンカゲロウ ・ミドリタニガワカゲロウ ・ウエノヒラタカゲロウ ・エルモンヒラタカゲロウ ・マツムラヒラタカゲロウ ・ヒメヒラタカゲロウ ・チラカゲロウ ・ミンミンゼミ ・ヒグラシ ・アズマオオズアリ ・アルタイヤマトビケラ ・ウルマーシマトビケラ ・ナミコガタシマトビケラ |

<データ提供：神奈川県環境科学センター>

(ウ) 生物調査員ヒアリングの結果概要

生物調査員を対象に、市内の自然環境及び主な動植物の分布状況に関するこれまでの状況や今後の課題等について、本計画の検討材料とすることを目的に調査員ヒアリングを実施しました。

日程：令和6年（2024年）8月20日

会場：秦野市くずはの家

参加者数：14名（1班：水田、2班：雑木林、3班：神社・公園に分かれて実施）

【意見の概要】

■ 1班：水田班

| ヒアリング項目 | 主な意見 |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 自然環境の変化や生きものの分布状況 | <p><u>柳川生き物の里（柳川）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は全体的に湿地だったが、10年くらい前から乾田化し始めている。 ・令和元年の台風第19号で水路が土で埋まっていたが、令和5年に水路を復元し、ヤマアカガエルなどが戻ってきた。 <p><u>オ戸橋（蓑毛）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒガンバナはなくなってはいないが減少しているように思う。 ・谷筋の流れが速いため、水生生物は生息しにくい場所である。 <p><u>若竹の泉付近の水田（千村）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホトケドジョウ、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ホタルなどが確認されている。 ・アメリカザリガニが侵入している。 <p><u>渋沢生き物の里（渋沢）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年でヤマビルが増えている。 <p><u>舞台（鶴巻）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シギ、チドリなどの渡り鳥がくるが、最近は少ない。 ・ノミノフスマ、ヒガンバナ、チョウジタデが確認されている。 ・ジャンボタニシ対策で農薬や水抜きを行っており、それがほかの生物にも影響が出ている気がする。 <p><u>おおね公園（鶴巻）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブルーギルが繁殖している。 ・田んぼにはニホンアマガエルのオタマジャクシやドジョウがいる。 水路にはタイワンシジミがいる。 <p><u>道栄塚（落合）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷戸のようになっており、放棄地が増えている。 ・チョウジタデやオモダカなどの水田雑草が残っている。 ・ザリガニやノミノフスマもいる。 |
| 2. 生物多様性を保全するために必要と考えられること | <ul style="list-style-type: none"> ・一般の人は、いろんなところに生き物がいることに気づいていない。 見栄えのいい植物等ばかり注目され、市にあるべき自然がどのようなものなのか、理解いただくことが大事ではないか。 ・ヤマビルやジャンボタニシの駆除のため、農薬等を使用してしまう |

| | |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>ことが多い。ほかの生き物への影響について認識いただくことが大事だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田んぼは、区画ごとに所有者が異なり、農薬を使ったり手で除草するなど外来種対策がまちまちである。統一して在来種にやさしい手法になるとうれしい。 ・谷戸の田んぼについては、世代の移り代わりにより手入れがなされなくなっている。 ・平塚市は、乾田化が進んでいる。秦野市では冬季水田を取り組んでいるところもあるが、その効果を明確化して周知することが、取り組みを推進するのに大事ではないか。 |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

■ 2班：雑木林班

| ヒアリング項目 | 主な意見 |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 自然環境の変化や生きものの分布状況 | <p><u>蓑毛自然観察の森（蓑毛）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマビルが多い。最近はずつ舗装され、被害は軽減している。 ・植物の種数は多く、マルバフジバカマが確認できる。 ・鳥類はオオタカ、哺乳類はイノシシ、シカ、クマがいる。 ・30年前に比べると環境は悪化している。 <p><u>東電パワーグリッド周辺（東田原）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒナノキンチャクが確認されている。 ・最近除草剤による草刈りが行われており、貴重種がいなくなってしまうことを懸念している。 <p><u>NPO ドン会活動拠点（名古屋）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔はガムシ、シマゲンゴロウなどの水生昆虫が多く確認できたが、水田に農薬等をまくことで数が激減した。ドン会が活動し始めてから、環境は少しずつ改善されてきている。 ・ドン会が実施している生物調査が書籍化されており、その結果を活用した方がよいと思う。 <p><u>名古屋里山を守る会周辺（名古屋）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅団地、ニトリの先の一帯は放置され、管理されておらず環境が悪化している。 ・草地ではチョウ、昆虫類は確認できている。 ・みかん畑周辺の環境は非常に良い。 <p><u>曾屋ハイキングコース（曾屋）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方による手入れが行き届いているが、手入れがいきすぎで植物が根こそぎ刈られている。 <p><u>羽根林道（羽根）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹林地では、ナラ枯れがみられる。ピークは過ぎたが倒木が怖い。 <p><u>柳川生き物の里（柳川）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガムシが生息している。 <p><u>震生湖（今泉）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマビルがおらず、環境良好。雑木林が管理されている。 |

| | |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・コイが繁殖し困っている。釣り人に生物多様性への理解を啓発する必要がある。 ・コシアキトンボ、ウチワヤンマが生息している。 <u>渋沢生き物の里（渋沢）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・キンラン、リンドウが確認でき、昔ながらの里山らしい手入れがされている。 |
| 2. 生物多様性を保全するために必要と考えられること | <ul style="list-style-type: none"> ・草刈りボランティアの方や事業者による草刈りは、草を根こそぎ刈ってしまったたり、除草剤を使用したりすることによって、生物が定着しづらい環境になっている。 ・本来の固有種ではなく重機についてきた種子等によって別の種が生育し、環境が変わってしまうケースもある。 ・以上を踏まえ、出来る範囲で生物多様性に配慮していただけるよう、生物多様性の意義について今後も普及啓発し続ける必要がある。 |
| 3. 活動する上で困っていること | <ul style="list-style-type: none"> ・調査員の高齢化やヤマビル被害によって調査員になりたがる人が減っている。調査員の担い手確保が課題。 ・生物調査は年2回の実施となっているが、2回だけでは生き物の状況を網羅するのが難しい。都度、別日に確認した記録を反映するなど、調査方法について精査した方がよい。 ・曾屋ハイキングコースなど、ボランティアによる草刈り後に調査すると生物を見つけることが困難になる。草刈り日の情報を得るのが難しい。 |

■ 3班：神社・公園班

| ヒアリング項目 | 主な意見 |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 自然環境の変化や生きものの分布状況 | <u>白笹稲荷神社（今泉）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に草刈り等の管理がされている。 ・一貫田用水では、ホテルを守るためにカワニナをまいて保護している。 ・一貫田用水がどぶさらいによってきれいになりすぎた結果、生き物が隠れる場所がなくなり、生き物がなくなった。 <u>いまいずみホテル公園（室川周辺含む）（今泉台1丁目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・河川工事の影響で、河川的环境が変わってしまい、見かける生き物は明らかに減った。 ・ホトケドジョウがたくさんいたが減ってしまった。産卵場所や隠れ場がなくなった。 ・モクズガニにも影響があるのではないかな。 ・カルガモなども草がないので困っているのではないかな。マガモの個体は室川周辺の公園で増えている。 ・カワムツが増えた。誰かが放したのだと思われる。上から見ただけでも姿が見える。 <u>小藤川水田（今泉）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ホトケドジョウがみられる。 ・モクズガニは今まではいなかったが、みられるようになった。 |

| | |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>今泉あらい湧水公園（今泉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の方が草刈りを行い、丸刈りにしてしまっている。 <p>今泉名水桜公園（今泉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アオコが発生していて、景観上よくない。もっと排水対策をしてほしい。水中ポンプを使うなどしてはどうか。水門をあけたりしているが、それでは効果がないと思う。 ・泥かきをいくらやってもまた泥がたまってしまう。 ・カワセミがいる。住宅のあるところから飛んできているようだ。室川にもカワセミがいる。 ・ブラックバスを放す人がいるようで困っている。ニシキゴイも放している。ザリガニを放す人もいる。飼っているものを放すのではないか。 ・キマダラカメムシが増えている。桜の木に集まるので、木が弱くなるのではと心配している。 |
| 2. 生物多様性を保全するために必要と考えられること | <ul style="list-style-type: none"> ・えのきの会ではエコスクールを行っている。水辺分科会など3つの会がある。幼稚園、低学年を対象。小さな子ども達には、生き物に親しむのが中心。日頃から関心をもってもらえるといいと思う。 ・街の木を切ると緑が減ってしまう。植えるにしても、生き物につながるのある木がよい。要望を挙げることができればよい。クヌギ、ハンノキ、カシなど。千年の森事業のようにカシばかり植えるのはどうかと思う。秦野市に過去にあった木の種類等など、そのような情報が整理されていて、そこから選定するなどできるとよい。 |
| 3. 活動する上で困っていること | <ul style="list-style-type: none"> ・水辺分科会は人数が少なくなり、安全性を確保できないことから、活動を休止した。 ・野鳥の分科会で双眼鏡を使うのだが、いい双眼鏡がほしい。（参加者に貸したりする） ・指標種をみつけるために、自分でネットから写真を集めて一覧をつくったりしている。花の季節以外でも見分けられるように、葉の写真を撮ったりしている。ネットで入手した写真には著作権があるので使いにくい。写真リストがほしい。 |

(I) 生き物の現況

水田や農地、雑木林にはホトケドジョウ、モクスガニ、ヤマアカガエル、ホタルなどの指標種が確認され、良好な自然環境が守られています。一方で、ヤマビルやジャンボタニシ駆除のための農薬・除草剤の使用や、草刈り、河川工事等によって生き物が減少しているところも見られます。生物多様性に配慮した環境の維持管理方法を周知する必要があります。

(4) 前計画の進捗状況

平成19年（2007年）に策定した「秦野市みどりの基本計画」（以下、「前計画」という）における、みどりの将来像「緑が育む 水とみどりあふれる ふるさと秦野」の実現に向けて、緑地の保全及び緑化の目標を掲げ、みどりの施策を推進してきました。目標の達成状況と施策の進捗状況を以下に示します。

ア 前計画の目標達成状況

(ア) 緑地の確保目標水準

緑地の確保目標水準のうち、市街化区域面積に対する割合については、目標値の15%を達成しています。その他の項目については、未達成であるものの達成率は概ね90%以上で進捗しています。

都市計画人口一人当たりの都市公園の敷地面積のうち、都市公園については、目標値8.49 m²/人に対して令和5年度（2023年度）実績は6.60 m²/人と達成率77.7%にとどまっています。

| 項目 | | 現状値 令和5年度（2023年度）実績 | 前計画 令和7年（2025年）目標値 | 達成率 |
|-------------------------|--------------------------------|-------------------------|-------------------------|--------|
| 緑地の確保目標水準 | 市街化区域面積に対する割合 A | 15% | 15% | 100.0% |
| | 都市計画区域面積に対する割合 B ^{※1} | 72% | 74% | 97.3% |
| 都市計画区域人口一人当たりの都市公園の敷地面積 | 都市公園等 （都市公園以外の公共施設緑地を含む面積） | 25.22 m ² /人 | 26.60 m ² /人 | 94.8% |
| | 都市公園 | 6.60 m ² /人 | 8.49 m ² /人 | 77.7% |
| 都市緑化の目標 | 施設緑地 | 758.93 ha | 802.96 ha | 94.5% |
| | 地域制緑地 ^{※2} | 6,899.01 ha | 6,941.63 ha | 99.4% |
| | 合計（重複105.64haを除く） | 7,552.30 ha | 7,638.94 ha | 98.9% |

※1 都市計画区域内の緑地確保量は、令和2年度（2020年度）都市計画基礎調査票の市全域の緑地面積7428.8haを使用しています。

※2 地域制緑地は、P25～26の合計から重複している面積を除いています。

$$A = \frac{\text{市街化区域内の緑地確保量}}{\text{市街化区域面積}}$$

$$B = \frac{\text{都市計画区域内の緑地確保量}}{\text{都市計画区域面積}}$$

(イ) 緑地別の目標

緑地別の目標値を達成した項目は、運動公園、風致公園、都市緑地、公共施設緑地のほぼすべての項目、環境創出行為（プレイロット）、生き物の里等となっています。特に、環境創出行為（プレイロット）、生き物の里は目標値を上回る達成状況となっています。

反対に、近隣公園、地区公園、歴史公園、広域公園、特別緑地保全地区については達成率が低く、当初目標として定めていた内容と現状のニーズが合っていない可能性が考えられるため、整備方針を見直す必要があると言えます。

| 項目 | | | 現状値 (令和5年度(2023年度)実績) | 前計画 令和7年(2025年)目標値 | 達成率 | |
|-------------|--------|-------------------|--------------------------|-----------------------|----------|--------|
| (施設緑地) | 都市公園 | 住区基幹公園 | 街区公園 | 15.28 ha | 16.08 ha | 95.0% |
| | | | 近隣公園 | 3.33 ha | 7.33 ha | 45.5% |
| | | | 地区公園 | 6.82 ha | 11.92 ha | 57.2% |
| | | 都市基幹公園 | 総合公園 | 0.00 ha | 0.00 ha | — |
| | | | 運動公園 | 17.75 ha | 17.75 ha | 100.0% |
| | | 特殊公園 | 風致公園 | 0.66 ha | 0.66 ha | 100.0% |
| | | | 歴史公園 | 1.02 ha | 7.92 ha | 12.9% |
| | | 広域公園 | 36.10 ha | 50.83 ha | 71.0% | |
| | 都市緑地 | 25.05 ha | 25.05 ha | 100.0% | | |
| | 公共施設緑地 | 緑地 | 2.20 ha | 2.20 ha | 100.0% | |
| | | 広場 | 5.46 ha | 5.46 ha | 100.0% | |
| | | 市民農園 | 9.99 ha | 9.98 ha | 100.1% | |
| | | 農村公園 | 1.10 ha | 1.10 ha | 100.0% | |
| | | 教育施設 | 52.02 ha | 52.02 ha | 100.0% | |
| | | 河川緑地 | 87.58 ha | 87.58 ha | 100.0% | |
| | | その他 | 140.92 ha | 135.07 ha | 104.3% | |
| | 民間施設緑地 | 環境創出行為 | 環境創出行為(プレイロット) | 5.44 ha | 4.86 ha | 111.9% |
| | | | 環境創出行為(緑地) | 29.31 ha | 30.04 ha | 97.6% |
| | | その他 | 318.88 ha | 337.10 ha | 94.6% | |
| | 地域制緑地 | 法によるもの | 特別緑地保全地区 | 0.00 ha | 27.67 ha | 0.0% |
| | | | 生産緑地地区 | 91.1 ha | 100 ha | 91.1% |
| 国定公園 | | | 3,938 ha | 3,938 ha | 100.0% | |
| 農業振興地域農用地区域 | | | 678.37 ha | 695.10 ha | 97.6% | |
| 保安林区域 | | | 3,715 ha | 3,719 ha | 99.9% | |
| 自然共生サイト | | | 11.52ha | — | — | |
| 条例等によるもの | | 自然公園 | 290 ha | 290 ha | 100.0% | |
| | | 自然環境保全地域 | 167.10 ha | 167.10 ha | 100.0% | |
| | | 樹林保全地区 | 9.27 ha | 10.36 ha | 89.5% | |
| | | 保存樹木 | 30 本 | 32 本 | 93.8% | |
| | | 生垣の設置 | — | 1.52 ha | — | |
| | | 生き物の里 | 2.86 ha | 2.70 ha | 105.7% | |
| | | かながわのナショナル・トラスト緑地 | 5.61 ha | 0 ha | — | |

(ウ) 里山の保全再生整備の目標

緑地別の目標値を達成した項目は、地域水源林長期施業受委託事業で目標値を上回る達成状況となっています。

一方、ふるさと里山整備事業、里山ふれあいの森づくり事業については達成率が低い状況です。里山は本市の地域特性として重要な要素であることから、整備方針を見直し、現在のニーズにあった里山づくりを進める必要があると言えます。

| | | 現状値 (令和5年度実績) | 前計画 令和7年目標値 | 達成率 |
|-----------------------|--------------------|------------------|----------------|--------|
| 委託による 整備 | ふるさと里山整備 事業 | 7.70 ha | 42.24 ha | 18.2% |
| | 地域水源林長期施 業受委託事業 | 30.50 ha | 24.61 ha | 123.9% |
| ボランティ ア団体によ る整備 | 里山ふれあいの森 づくり事業 | 31.95 ha | 43.59 ha | 73.3% |
| 合計 | | 70.15 ha | 110.44 ha | 63.5% |

イ 前計画の施策の進捗状況

前計画で設定した施策ごとの進捗状況について、下表の評価基準にのっとり、関係部署・関係機関において施策評価を行いました。

68 施策中、「◎：100%以上達成」が21 件（30.9%）、「○：60～100%達成」が33 件（48.5%）、「△：30～60%達成」が5 件（7.4%）、「×：0～30%達成」が4 件（5.9%）、「－：評価不能」が5 件（7.4%）となっています。

【評価基準】

- ◎：100%以上達成（現状維持又は完了（削除））
- ：60～100%達成（一部見直し又は現状維持）
- △：30～60%達成（要見直し又は一部見直し必要）
- ×：0～30%達成（要見直し）
- －：評価不能

(ア) みどりの基本計画

| 項目 | 評価 | | | | | 合計 |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|------|-------|--------|
| | ※ 端数処理により合計が合わない場合があります。 | | | | | |
| | ◎ | ○ | △ | × | － | |
| (1) 施設緑地の整備目標及び方針 | 2 | 11 | 2 | 0 | 2 | 17 |
| | 11.8% | 64.7% | 11.8% | 0.0% | 11.8% | 100.0% |
| 現況と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・都市公園に関する施策は、概ね順調に進捗しています。施設の更新が必要な公園が増加していることから、計画的な更新を行い、誰もが安心して快適に利用できる公園の提供に努める必要があります。特に、桜土手古墳公園は、園内樹木の樹勢の衰えが見られるものがあり、適正な対応が必要です。 ・公共施設緑地については、概ね順調に進捗しています。特に、市民農園については、目標を上回る整備ができました。河川緑地、震生湖周辺については、緑地範囲を明確にするなど、維持管理体制に配慮しつつ可能な範囲で緑化に取り組む必要があります。 ・民間施設緑地については、環境創出行為に対する緑化指導を行い、目標を上回る達成状況となっています。 ・公園愛護団体や公園美化ボランティア団体等の団員の高齢化により、参加人数の減少や管理範囲の縮小等が見られます。ボランティアの活動活性化が課題となっています。 | | | | | |

| 項目 | 評価 | | | | | 合計 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|------|-------|------|--------|
| | ※ 端数処理により合計が合わない場合があります。 | | | | | |
| | ◎ | ○ | △ | × | － | |
| (2) 地域制緑地の整備目標及び方針 | 4 | 6 | 0 | 2 | 0 | 12 |
| | 33.3% | 50.0% | 0.0% | 16.7% | 0.0% | 100.0% |
| 現況と課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・葛葉川ふるさと峡谷等の特別緑地保全地区の指定、かながわのナショナル・トラスト緑地の特別緑地保全地区の指定については、検討が進みませんでした。 ・葛葉緑地（くずはの広場）が自然共生サイトに認定されました。 ・生産緑地地区、農業振興地域農用地区域については、農業従事者の高齢化による優良農地の減少が課題となっています。農地バンクを通じた担い手確保や農地の集積・集約化により、荒廃農地の発生防止・解消・有効利用を実施していく必要があります。 ・県立丹沢大山自然公園は自然再生の取り組みにより、効果が少しずつ現れています。引き続き、多様な自然環境を保全し、自然公園の保護と利用を適切に行っていく必要があります。 ・自然公園施設については、適切な整備や維持管理に取り組みました。限りある予算の中で老朽化が進む自然公園施設の整備や維持管理を行っていく必要があります。 ・保安林区域については、順調に進捗しています。今後も市内に残る保安林の公益的機能が発揮できるよう、管理や整備方針について検討する必要があります。 ・樹林保全地区については、所有者の高齢化や樹木の成長に伴い適正な管理が困難となっています。引き続き、3者協定による整備を進めるとともに、奨励金のあり方を見直す必要があります。 ・生垣の設置については、平成30年度（2018年度）に「秦野市生垣設置奨励補助金」を終了し、施策は完了済みとなっています。 ・生き物の里については、令和6年（2024年）3月に新たに1箇所を追加指定し、合計7箇所と順調に進捗しています。生き物の里管理団体が高齢化により適正な管理が難しくなっていることから、新たな管理団体の確保や管理手法の確立が課題となっています。 | | | | | | |

| 項目 | 評価 | | | | | 合計 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|-------|------|------|--------|
| | ※ 端数処理により合計が合わない場合があります。 | | | | | |
| | ◎ | ○ | △ | × | － | |
| (3) 都市緑化の推進 | 6 | 5 | 2 | 0 | 1 | 14 |
| | 42.9% | 35.7% | 14.3% | 0.0% | 7.1% | 100.0% |
| 現況と課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・公共・公益施設の緑化については、概ね順調に進捗しています。植樹時期が不明な樹木の管理や、植栽整備の維持管理の負担が大きくなっており、維持管理しやすい樹木の検討が必要です。 ・民有地の緑化については、工業系地域、商業系地域の緑化は概ね順調に進捗しています。住居系地域の緑化については、特に規制がなく個人に委ねる他ない状況です。住民への啓発等により緑化を促していく必要があります。 ・市民参加の状況については、団体の育成・支援、啓発事業、環境教育・学習等を実施しています。もりりんグッズやもりりんスタンプなどの活用、「はだのみどりの月間（4月29日～5月31日）」を始めとした各種の緑化イベントを継続して実施し、市民の緑化意識の高揚を図る必要があります。 | | | | | | |

| 項目 | 評価 | | | | | 合計 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|-------|-------|------|--------|
| | ※ 端数処理により合計が合わない場合があります。 | | | | | |
| | ◎ | ○ | △ | × | － | |
| (4) はだの一世紀の森林づくり構想 | 3 | 2 | 1 | 1 | 0 | 7 |
| | 42.9% | 28.6% | 14.3% | 14.3% | 0.0% | 100.0% |
| 現況と課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・里山林の保全再生については、「はだの里山保全再生活動団体等連絡協議会」において、地区別での意見交換会や全体視察研修、里地里山フォーラム等を実施し、概ね順調に進捗しています。里山保全活動団体の会員の高齢化により活動者数の減少や活動範囲の縮小が進んでいることから、里山保全活動団体への支援を継続する必要があります。 ・林業の育成については、本市からは良質な木材が産出されるものの市内には製材所が無く、多くの木材が市外から購入されている状況です。木材を使用することで森林資源が循環され、持続的な森林管理につながることを伝えるため、多くの市民に生涯を通じて木とふれあう機会を創出する「木のある暮らしづくり事業」を展開する必要があります。 ・都市緑化については、開発行為を伴わない民地であり行政が介入することが難しいため、施策の方向性について抜本的に見直す必要があります。 | | | | | | |

| 項目 | 評価 | | | | | 合計 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|------|-------|-------|--------|
| | ※ 端数処理により合計が合わない場合があります。 | | | | | |
| | ◎ | ○ | △ | × | － | |
| (5) 重点的に緑地の保全に 配慮が必要な地区 (保全配慮地区) | 2 | 3 | 0 | 1 | 2 | 8 |
| | 25.0% | 37.5% | 0.0% | 12.5% | 25.0% | 100.0% |
| 現況と課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・保全配慮地区については、地区の設定にまでは至りませんでした。渋沢丘陵の震生湖周辺において、地域市民と連携して樹木伐採や草刈などを行い、広場の整備を実施しました。 ・頭高山周辺整備事業において、ナラ枯れ樹木の伐採、頂上整備、ウッドチップ舗装、階段・手すりの設置を行い、ハイカーが安心して歩くことができるように整備を行いました。また、地権者の協力を得て、イロハモミジやミツバツツジなど6種の植栽を行いました。今後もハイキングコース沿いや観光地等における栽培地を増やし、事業効果を高める必要があります。 | | | | | | |

| 項目 | 評価 | | | | | 合計 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|------|------|------|--------|
| | ※ 端数処理により合計が合わない場合があります。 | | | | | |
| | ◎ | ○ | △ | × | － | |
| (6) 重点的に緑化の推進を図 る地区(緑化重点地区) | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 25.0% | 75.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 現況と課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・水無川遊歩道については、市民を中心に活動するモデル花壇の整備、本庁舎正門でモデル花壇PR用植栽等を実施しました。また、景観まちづくり条例に基づく庭先協定制度を活用し、商店街に花苗プランターの設置補助を実施しました。 ・秦野駅南部地区周辺については、今泉荒井地区の土地区画整理事業において、今泉あらい湧水公園の整備により湧水の保全が図られています。 ・秦野市カルチャーパーク周辺については、令和4年度(2022年度)から指定管理者による管理運営を行っています。カルチャーパーク内のバラ園での定期的な剪定、施肥の実施、園内樹木の定期的な剪定等を実施しています。みずなし川緑地の桜並木は、植栽帯にあることから、根の生育不良により病気に感染しやすく、管理が課題となっています。 | | | | | | |

(イ) 生物多様性地域戦略

| 項目 | 評価 | | | | | 合計 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|------|------|------|--------|
| | ※ 端数処理により合計が合わない場合があります。 | | | | | |
| | ◎ | ○ | △ | × | － | |
| (1) 生物多様性の保全への取り組み | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 66.7% | 33.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 現況と課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・動植物の情報収集や保護対策については、雑木林、公園、神社（動物・植物）24箇所、水田、生き物の里等（動物・植物）21箇所の生物多様性調査を年2回実施しています。希少生物の確認は、年2回の調査では確認できない場合があります、評価の仕方が課題となっています。 ・環境ボランティア団体への支援については、団体の運営補助や活動支援などを定例的に行っています。環境ボランティア団体の会員の高齢化、ボランティア活動への参加者の固定化が課題となっています。 ・緑地の保全・再生対策や緑地の創造については、環境創出行為に対して、秦野市まちづくり条例に基づく緑化指導（プレイロット及び緑地の設置）を行いました。今後は、時代にあった指導内容に変更していく必要があります。 | | | | | | |

| 項目 | 評価 | | | | | 合計 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|------|------|------|--------|
| | ※ 端数処理により合計が合わない場合があります。 | | | | | |
| | ◎ | ○ | △ | × | － | |
| (2) 生物多様性の社会浸透への取り組み | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 33.3% | 66.7% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 現況と課題 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自然とのふれあい活動について、くずはの家では、つどいをはじめ月例観察会など各種イベントを行っています。参加者が以前に比べ低年齢になっている傾向が見られているため、指導員も対象者のニーズに合わせた内容を考える必要があります。 ・環境学習の実施については、市の各部署や民間企業、大学、環境団体などが持っている環境に関する情報や知識、技術などを活用し、幼稚園・小学校の授業などを通じて子どもたちに環境学習「はだのエコスクール」を行いました。学校では学べない、体験できないようなプログラムの人気があることから、時代にあったプログラムを引き続き開拓していく必要があります。 ・継続的な美化活動については、7月の河川浄化月間等を通じて、河川浄化に対する意識を啓発しました。参加者数が減少傾向にあること、河川浄化月間の7月開催は熱中症への危険性が高まっていることから、開催時期や開催場所を見直すとともに、時代にあった活動内容を検討していく必要があります。 | | | | | | |

(5) 市民のみどりに対する意識

ア 調査の概要

調査期間：令和6年（2024年）10月18日（金）から

令和6年（2024年）10月28日（月）まで

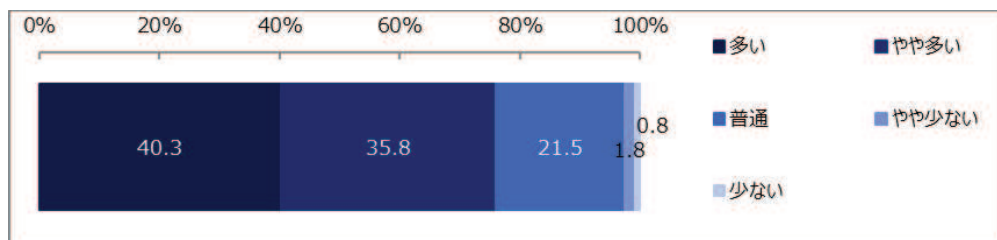
調査手法：Web アンケート方式

回答総数：400名

イ 調査結果

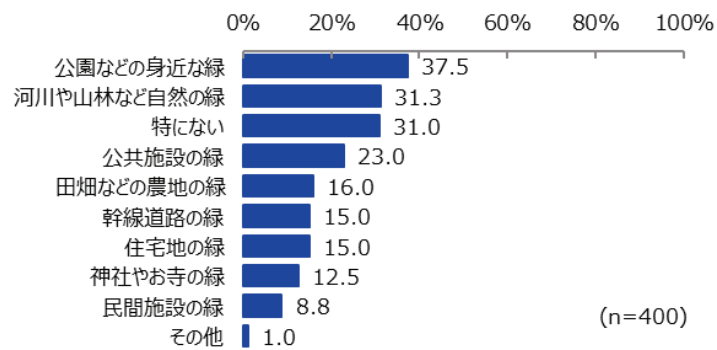
秦野市全体のみどりの量について、どのように感じていますか。（1つに○）

秦野市全体のみどりの量について、「多い」、「やや多い」と76.1%の方が感じています。



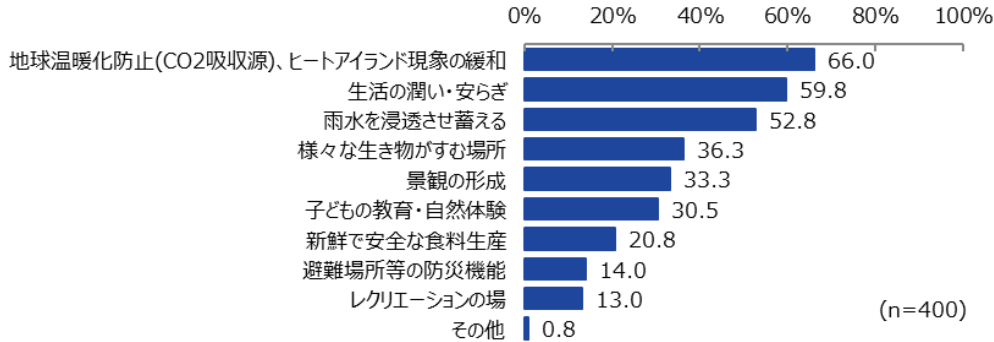
今後、充実させてほしい・増やしてほしいみどりは何ですか。（あてはまるものすべて）

今後、充実させてほしい・増やしてほしいみどりについて、「公園などの身近な緑」が37.5%と最も多く、次いで「河川や山林など自然の緑」が31.3%、「特にない」が31.0%などとなっています。



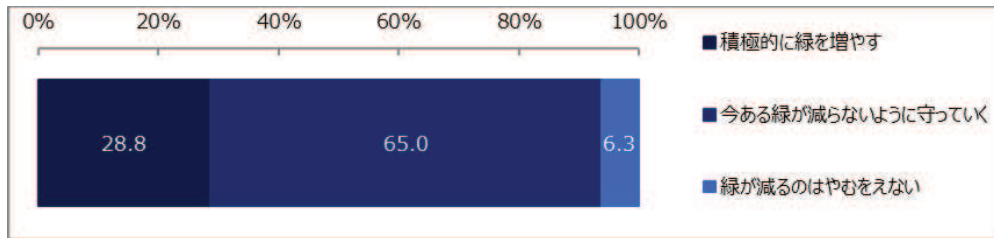
みどりの役割で大切だと思うのは何ですか。(あてはまるものすべて)

みどりの役割で大切だと思うことについて、「地球温暖化防止（CO2 吸収源）、ヒートアイランド現象の緩和」が66.0%と最も多く、次いで「生活の潤い・安らぎ」が59.8%、「雨水を浸透させ蓄える」が52.8%などとなっています。



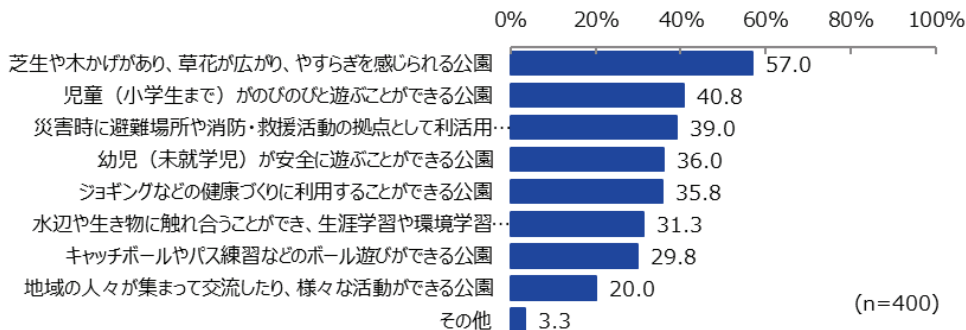
市のみどりについて今後どのようにすべきだと思いますか。(1つに○)

市のみどりの今後について、「今ある緑が減らないように守っていく」が65.0%と最も多く、次いで「積極的に緑を増やす」が28.8%、「緑が減るのはやむをえない」が6.3%となっています。



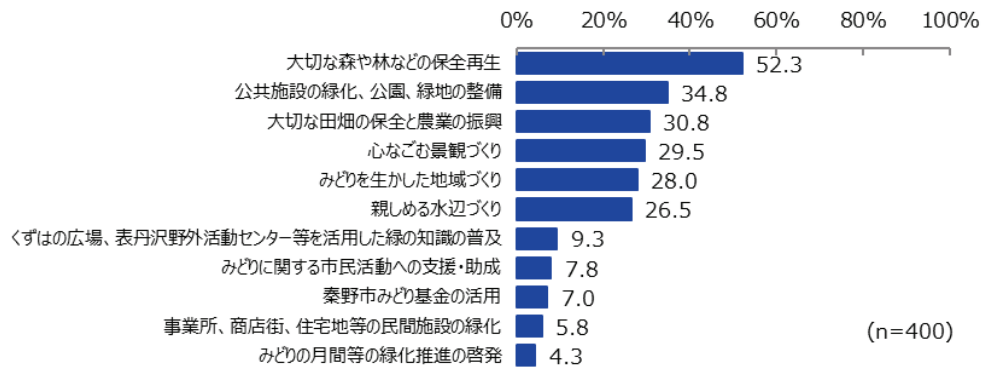
市内にどのような公園が増えるといいですか。(あてはまるものすべて)

市内にどのような公園が増えるといいかについて、「芝生や木かげがあり、草花が広がり、やすらぎを感じられる公園」が57.0%と最も多く、次いで「児童（小学生まで）がのびのびと遊ぶことができる公園」が40.8%、「災害時に避難場所や消防・救援活動の拠点として活用ができる公園」が39.0%などとなっています。



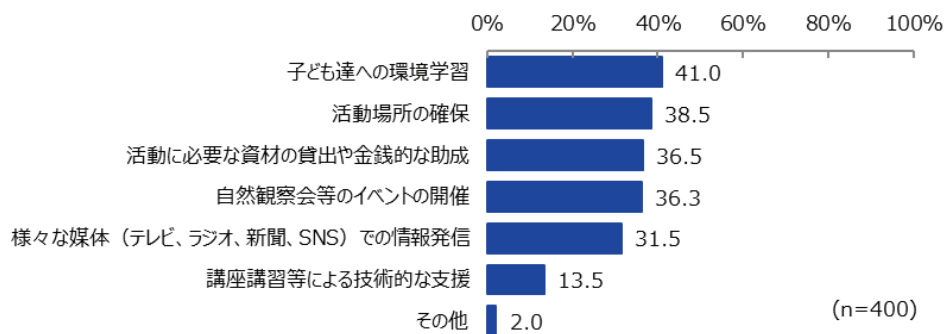
「秦野市みどりの基本計画～緑が育む水とみどりあふれるふるさと秦野～」の取り組みで重要だと思うことは何ですか。（あてはまるものすべて）

秦野市みどりの基本計画の取り組みで重要だと思うことについて、「大切な森や林などの保全再生」が52.3%と最も多く、次いで「公共施設の緑化、公園、緑地の整備」が34.8%、「大切な田畑の保全と農業の振興」が30.8%などとなっています。



生物多様性を保全するためには、どのような取り組みが効果的だと思いますか。（あてはまるものすべて）

生物多様性を保全するために、効果的だと思う取り組みについて、「子ども達への環境学習」が41.0%と最も多く、次いで「活動場所の確保」が38.5%、「活動に必要な資材の貸出や金銭的な助成」が36.5%などとなっています。



2 みどりに関する課題とその対応への視点

野鳥・昆虫・小動物などの生き物が暮らす自然と人とが共生できる環境としての「みどり」を保全するためには、みどりの持つ多面的な機能の発揮、魅力あるみどりの活用、協働の仕組みづくりが必要です。

課題1 みどりの持つ多面的な機能の発揮

林業や農業の低迷による手入れ不足森林は増加している一方、市街地の拡大によりみどりを構成する重要な要素である樹木が減ってきています。

みどりは、良好な都市環境の保全、防災、自然豊かなレクリエーションの場、良好な都市景観の形成、グリーンインフラ等の多様な機能を有しています。

また、地球温暖化、気候変動、生物多様性の損失といった深刻な課題に世界中が直面する中、都市の緑地を含む自然は、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラル等に資するものです。

これらのみどりが持つ多面的な機能を活用し、地域が抱えている課題の解決に取り組む必要があります。

課題2 魅力あるみどりの活用

本市には、表丹沢などのみどりを代表する地域資源が多くあります。これらの地域資源を地域の魅力として捉え、魅力ある質の高いみどりのまちづくりを進める必要があります。

街中の農地・緑地等の宅地化等によって、緑と緑の間隔が広がり、点在する緑と面的な緑をつなぐ「みどりネットワーク」が分断されてきています。

水無川をはじめとする河川周辺の公園や歩道の植栽等を整備・保全し、これを連携させることにより、「水とみどりのふれあいネットワーク」の形成を進める必要があります。

課題3 協働の仕組みづくり

緑化に係る人的資源や財源には限りがあるため、より効果的な手法や、市民・事業者・団体など様々な主体を巻き込んだ協働の仕組みづくりを進める必要があります。

自然共生サイト、ネイチャーポジティブ自治体認証の制度を活用した企業連携を進める必要があります。

緑の保全と育成は、市民一人ひとりがその重要性について理解し、身近なことからでも実践していく必要があります。引き続き、こどもから大人までみどりの保全や生物多様性に関する理解を促すための環境教育を推進していく必要があります。